資料2

令和6年度の取り組み内容について

【熊本県】

新規 菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	防災イベントにおける浸水想定区域図の周知	熊本県（玉名地域振興局）

○市町が主催する防災イベントにおいて、来場者に自宅周辺の浸水想定区域図を確認してもらい、防災意識の向上を図った。

■取組内容の説明

あらお防災フェスタでの様子
（令和6年9月1日：荒尾市総合文化センター）

長洲町防災フェアでの様子
（令和6年10月20日：金魚と鯉の郷広場）

防災情報くまもとのホームページを活用し、来場者に自宅周辺の浸水想定範囲や浸水深を認識してもらうことで、避難場所までの避難経路の確認や、事前の避難の呼びかけを行うことにより、防災意識の向上を図る。

■令和6年度時点の取組進捗状況

あらお防災フェスタ（令和6年9月1日）、長洲町防災フェア（令和6年10月20日）に参加し、県民等への啓発活動を行った。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
防災意識の啓発	防災イベントにおける浸水想定区域図の周知	R6時点		目標

更新 菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	砂防関係施設の整備	熊本県

○土砂災害から住民の命とくらしを守るため、人家等に対する直接的な土砂災害防止を目的として砂防事業を実施。砂防関係施設を整備することにより、河川への土砂や流木の流出を抑制し、下流河川の河床上昇に伴う洪水被害の防止に繋げる。

■砂防関係施設の整備

土石流となって流れ出てくる土砂や流木を砂防堰堤でしっかりと受け止めることで、下流の人家等に被害が出るのを防ぎます。

事業箇所図（令和６年度）

事業の進捗状況（令和６年度）

狐塚川　整備状況（R5年6月完成）

久原川　整備状況（R6年3月完成）

■令和6年度時点の取組進捗状況

砂防関係施設を10箇所で整備計画（令和6年度は3箇所で測量設計、5箇所で用地買収、令和7年度より5箇所工事着手予定）
令和7年度以降も、継続して砂防関係施設の整備を実施。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
土砂災害対策	砂防関係施設の整備	R6時点		目標

更新 菊池川水系流域治水プロジェクト 【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	森林の有する公益的機能の発揮に向けた森林整備・保全	熊本県、熊本森林管理署、森林整備センター熊本水源林整備事務所

○森林の有する山地災害防止機能や水源涵養機能等の公益的機能の適切な発揮に向け、山地災害危険地区や菊池川水系流域の森林を主体として、引き続き、間伐等の森林整備を推進。
○また、森林整備を効率的・効果的に進めるため、森林経営管理制度の活用や施業技術の実証・普及等を併せて実施。

■取組内容の説明

○菊池川上流域の森林において間伐等の森林整備を推進

間伐後の森林

○森林経営管理制度を活用した、適切な経営管理が行われてこなかった森林の集約化

森林経営管理制度の活用促進に向け市町村を支援

○造林作業等の省力化・低コスト化に向けた、新たな技術等の実証・普及

エリートツリー等の増産のための研修会を開催

■令和6年度時点の取組進捗状況

・菊池川上流域の森林において、間伐や再造林、鳥獣被害対策等の取組みを支援した。
・市町村での森林経営管理制度の活用の促進に向け、市町村職員を対象とした研修の開催や巡回指導による技術支援等を実施した。
・造林作業等の省力化・低コスト化に向け、成長に優れたエリートツリー等の増産に向けた技術研修会を開催した。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
森林整備・保全、治山施設の整備	森林整備・保全	R6時点		目標

更新 菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	水田の貯留機能向上（田んぼダムの推進）	熊本県

○熊本県では、現在、球磨川流域の人吉・球磨地域を中心に田んぼダムを推進しているが、今後は、県内全域に取組みを拡大していく方針。
○菊池川流域においても、今後、田んぼダムの普及・拡大を進めていく予定。

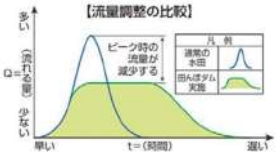
○田んぼダムの仕組みについて

・水田の排水桝に流出量を調整するせき板を設置して、水田の雨水貯留効果をフル活用。

○田んぼダムのイメージ

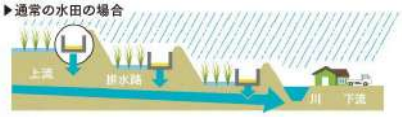
○大雨時に水田からの排水量を抑制

・雨水をできるだけ水田に貯留することで、ピーク時の流量を減少させ、水田からの流出が緩和。



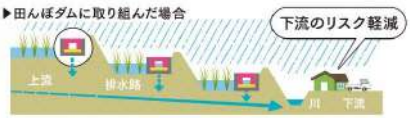
通常の水田の場合

ゲリラ豪雨や想定外の豪雨時には、下流に浸水被害が発生。



田んぼダムの場合

水田に雨水を貯留し、排水路への流出を遅らせ浸水被害を軽減。



■令和6年度時点の取組進捗状況（菊池川水系流域内）

関係市町へ取組み内容の説明や研修会を開催した。

（田んぼダムマイスター研修会R6開催実績）
R7.2.26 熊本市

（これまでの田んぼダム取組み面積）
R7.3月時点　南関町10.1ha

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
水田の貯留機能向上	田んぼダムの普及・拡大	R6時点		目標

継続 菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	治山事業による土砂や倒木の流出対策	熊本県、熊本森林管理署

○令和２年７月豪雨等により山地災害が発生した箇所又はおそれのある箇所（山地災害危険地区）等を対象として、下流への土砂・倒木の流出を抑止するための治山施設等の整備を実施。
○森林内の表土流出抑止や森林被害の復旧のため、簡易な土木的工法（柵工、筋工）を組み合わせた、森林整備を推進。

■取組内容の説明

○渓流荒廃箇所の復旧
・渓岸が浸食された渓流において、谷止工を施工し土砂等の流出を防ぐ取組を実施

・市町村　：山鹿市
・工事内容：谷止工

○山腹崩壊箇所の復旧
・林地が崩壊した箇所において、山腹工を施工し森林へ復旧する取組を実施

・市町村　：山鹿市
・工事内容：山腹工

○森林整備の実施
・流木被害が発生するおそれのある保安林において、筋工を組み合わせた森林整備を実施

・市町村　：菊池市
・工事内容：森林整備

■令和6年度時点の取組進捗状況

山地災害が発生した箇所について、谷止工や山腹工等の復旧工事及び森林整備を実施。

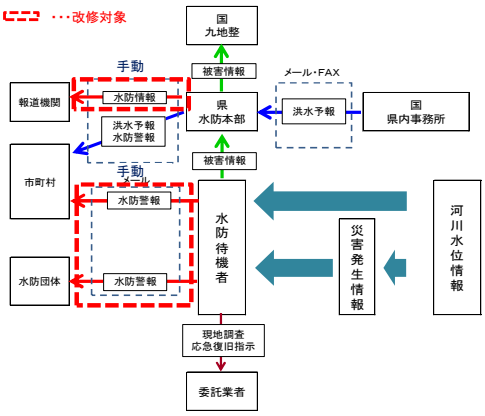
対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
森林整備・保全、治山施設の整備	谷止工、山腹工等の実施	R6時点		目標

完了 菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水防警報発令システム改修	熊本県

○関係機関への水防警報発令や報道機関への水位超過に関する情報提供について、的確かつ迅速な情報発信を目的として、関係機関への情報発信を半自動化する水防警報発令システムの改修を行う。

【現在の水防待機業務の流れ】



【改修後の操作画面イメージ】

■令和5年度時点の取組進捗状況

令和3年10月に水防警報発令システムの改修を完了し、現在運用中。

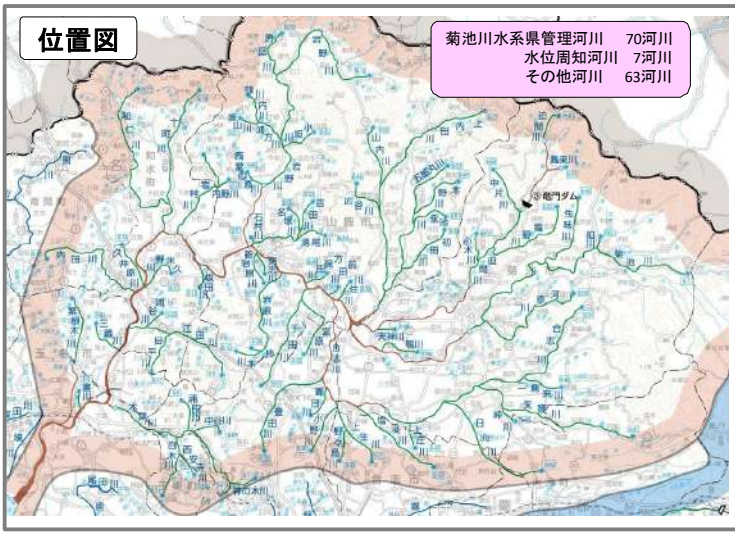
対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
土地の水災害リスク情報の充実	水防警報発令システムの改修（半自動化）	完了		

完了 菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

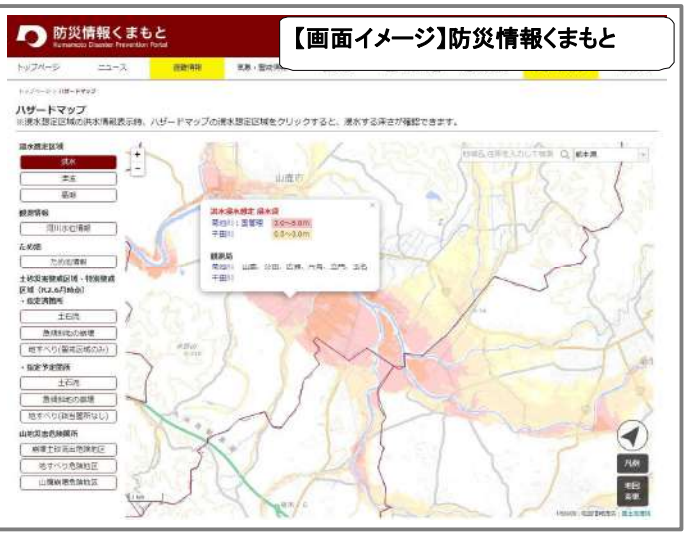
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	洪水・土砂災害ハザードマップ土地のリスク情報の充実（浸水想定区域図の作成）	熊本県

○菊池川水系の洪水浸水想定区域図（想定最大規模）については、水位周知河川以外の河川も含む県管理河川全７０河川において、令和４年３月までに作成・公表済み。
○作成した洪水浸水想定区域図をより分かりやすく閲覧できるよう、県ホームページ「防災情報くまもと」の改良を実施した。

位置図



【画面イメージ】防災情報くまもと



■令和5年度時点の取組進捗状況

令和4年3月までに作成・公表した洪水浸水想定区域図については、県ホームページ「防災情報くまもと」の改良を実施し、令和5年1月より公表した。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
避難体制等の強化	水位周知河川以外の河川の洪水浸水想定区域図の作成	完了		

■１）①水防学習・教育の推進　【熊本県危機管理防災課】

■防災に関する継続性のあるイベント等の企画、実施

○教職員向け研修会を開催し、学校の防災担当教職員等にマイタイムラインの作成方法や防災教育に関する支援を実施。
○くまもとマイタイムライン専用WEBサイトや作成支援動画について、県政広報媒体や防災講話等で周知。
○地域の防災リーダーの育成及びスキルアップを支援するため、火の国ぼうさい塾や地域防災リーダースキルアップ研修等を実施。

マイタイムライン専用WEBサイト、作成支援動画

教職員向け研修会

地域防災リーダー
スキルアップ研修

■ 1）③災害発生を想定した事前準備【共助】　【熊本県河川課】

■高齢者等の災害時要配慮者を対象とした避難確保計画の作成、訓練の検討、実施

【全県的な取組み】

〇県内全ての要配慮者利用施設が早期に避難確保計画を作成するよう、施設管理者を対象に以下の取組を実施。その結果、本県の計画作成率（洪水）は2.9%（H31.3月）から95.4%（R6.9月）に向上

- 避難確保計画について、計画作成支援動画を作成し、Youtubeで公開
- 施設が容易に自施設の浸水深を確認できるよう、県ホームページ（防災情報くまもと）にて情報を公開

県ホームページ（防災情報くまもと）の改修内容

YouTubeで動画公開

【熊本市】

更新 菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	農業用排水路整備	熊本市

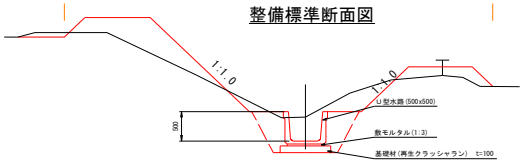
○菊池川水系内に存する老朽化した農業用排水路の更新を行う。

■熊本市での農業用排水路整備事例

（整備前）

（整備後）

整備標準断面図



■令和6年度時点の取組進捗状況

内水氾濫対策として農業用排水路整備を実施する。
菊池川水系合志川へ排水する未整備の農業用排水路を整備。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
農業水利施設の整備	農業水利施設の整備	R6時点		目標

更新 菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	・雨水貯留施設の設置補助 ・ため池の有効活用	熊本市

○地下水の涵養対策、節水対策及び雨水の流出抑制による水害軽減を図るため、雨水浸透ますや雨水貯留タンクの設置を推進する。

■取組内容の説明

【雨水浸透ます】
・新築、増改築の場合は2基目、既存住宅の場合は1基目からを補助対象として設定
・補助金は総額 200,000円を限度額とし、コンクリート製：19,000円／基、塩化ビニル製：14,000円／基を補助

【雨水貯留タンク】
・雨水貯留タンク及び公共下水道の設置に伴い不要となった浄化槽の雨水貯留槽として転用の2種類を設定
・雨水貯留タンクは、設置費の1/2（上限35,000円）を補助
・浄化槽の転用は、工事費の1/2（上限70,000円）を補助

【ため池の治水利用】
・水利権が放棄された、ため池を治水利用に転換する

雨水浸透ますチラシ

家庭用雨水貯留タンク

■令和6年度時点の取組進捗状況

雨水浸透ますについては、令和6年12月までに雨水浸透桝12基※の設置補助を実施した。
雨水貯留タンクについては、令和6年12月までに雨水貯留タンク12基、浄化槽転用3基※の設置補助を実施した。
ため池については、令和6年12月までにおいて実績なし。

※熊本市域全域

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
流域の雨水貯留機能の向上	雨水貯留施設の設置補助 ため池の有効活用	R6時点		目標

更新 菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害対象を減少させるための対策	土砂災害特別警戒区域からの移転促進事業	熊本市

○熊本県では土砂災害特別警戒区域（以下、レッドゾーン）内に居住する方々を安全な区域へ住宅移転させる「土砂災害危険住宅移転促進事業」を平成２７年に創設しており、本市においても「熊本市土砂災害危険住宅移転促進事業」を創設し、住宅移転を促進している。

■取組内容の説明

土砂移転チラシ

●事業創設後、毎年数件の申請があり、市内の安全な区域へ移転
●対象者には移設費最高300万円の補助あり
●県内移転であれば、本事業の活用が可能である
（各市町村の土砂災害危険住宅移転促進事業を活用）

■令和6年度時点の取組進捗状況

令和6年度において、令和6年12月末時点で1件申請 があり、レッドゾーンから熊本市内に移転している。（申請件数は市全体の数）

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
レッドゾーンからの移転の促進	土砂災害特別警戒区域からの移転促進	R6時点		目標

更新 菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害対象を減少させるための対策	がけ地近接等危険住宅移転事業	熊本市

○がけ崩れ、土石流、地すべり等の危険から住民の生命の安全を確保するため、災害危険区域等内に居住する人に対して、補助金を交付し、危険住宅からの移転を促進する。

■事業対象住宅（危険住宅）

次の（1）から（3）のいずれかの区域に存する既存不適格住宅又は（1）から（5）のいずれかの区域に存する住宅のうち、災害等により市が移転勧告、是正勧告、避難勧告、避難指示等を行ったもので、がけ地の崩壊等による危険が著しいもの。

（1） 災害危険区域（急傾斜地崩壊危険区域）

（2） がけ条例により建築を制限している区域

（3） 土砂災害特別警戒区域（通称レッドゾーン）

（4） 土砂災害特別警戒区域（通称レッドゾーン）に指定される見込みのある区域

（5） 事業着手時点で過去3年間に災害救助法の適用を受けた区域

■補助金交付要件

これまで住んでいた住宅を除却し、跡地に住宅等を建築しないこと。

■補助対象経費・補助限度額

経費	経費の内容	補助限度額
除却等費	危険住宅の撤去、動産の移転、仮住居、跡地整備費等に要する経費	1戸あたり97万5千円
建物助成費	危険住宅に代わる住宅の建設、購入及び改修をするために要する資金を金融機関等から借り入れた場合において、当該借入金利子に相当する額の経費	1戸当たり421万円（建物325万円、土地96万円） ※特殊土壌地帯 1戸当たり731万8千円（建物465万円、土地206万円、敷地造成60万8千円）

■令和6年度時点の取組進捗状況

令和6年度において、令和6年12月末時点で、補助金交付：1件である。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
がけ地近接等危険住宅移転事業	補助金交付	R6時点		目標

新規 菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

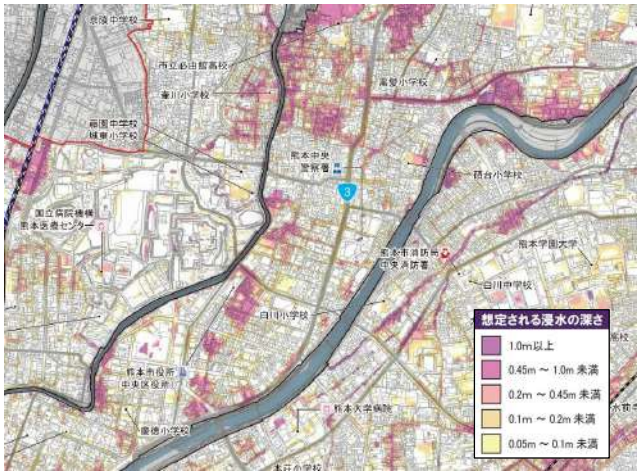
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	内水浸水想定区域図の公表	熊本市

○令和6年10月、本市ホームページ上に内水浸水想定区域図を公表。
○内水氾濫による浸水区域や浸水の深さ等、住民の避難や防災行動に繋がる情報を提供することで、浸水被害の最小化を図る。

■取組内容の説明

・今回作成したマップは、想定最大規模の大雨があった際、水路や雨水管から雨水が溢れて内水氾濫が発生した場合に想定される浸水区域や浸水深等を浸水シミュレーションで確認し図化したもの。

項　目	内水浸水想定区域図の概要
作成範囲	熊本市下水道計画区域（雨水）　10,796ha
降雨条件	1時間雨量153mm ※九州北西部地区の想定最大規模降雨
河川の水位	計画高水位　又は　吐口周辺の最低堤防高 ※外水氾濫は考慮しない。
浸水シミュレーションの計算手法	簡易モデル（管渠モデル省略） ※水路情報や浸水実績から各排水区の排水能力を設定した解析モデルを作成。



内水浸水想定区域図（中央区）　抜粋

■令和6年度時点の取組進捗状況

本市ホームページ上に内水浸水想定区域図を公表した。また、市政便りや新聞等の媒体を通じて広報・周知した。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
避難体制等の強化	内水浸水想定区域図の公表	R6時点		目標

新規 菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

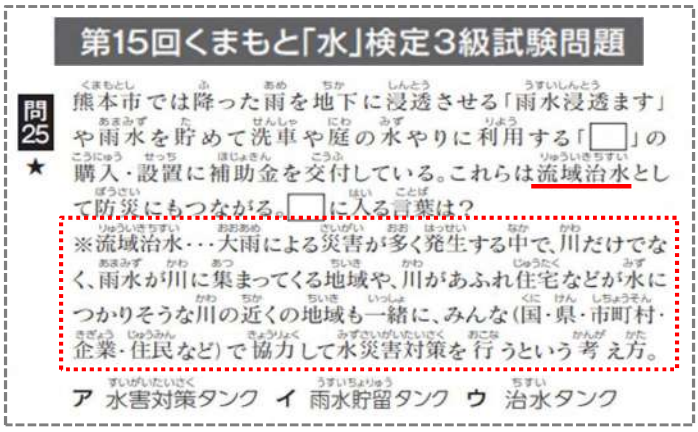
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	くまもと「水」検定	熊本市

○地下水の仕組みや水に関する歴史・文化などを楽しく学び、地下水保全を担う人材育成や「地下水都市熊本」の魅力づくりにつなげていくことを目的に、「水」に関するご当地検定として『くまもと「水」検定』を実施している。
○「流域治水」の周知を図るため、令和5年度から流域治水の説明等を盛り込んだ問題を出題している。

■取組内容の説明

・平成20年度から開始した全国初の「水」に関するご当地検定
・1～3級を設定し、誰でも受験することが可能（受験料無料）
・合格者には1～3級に応じた色の認定証を交付 ※1
・小・中・高等学校を中心に出前講座や団体受検の推奨も実施

※1　認定証（1級ゴールド、2級：シルバー、3級：ブルー）


第15回くまもと「水」検定3級試験問題

問25 ★ 熊本市では降った雨を地下に浸透させる「雨水浸透ます」や雨水を貯めて洗車や庭の水やりに利用する「□」の購入・設置に補助金を交付している。これらは流域治水として防災にもつながる。□に入る言葉は？

※流域治水・・・大雨による災害が多く発生する中で、川だけでなく、雨水が川に集まってくる地域や、川があふれ住宅などが水につかりそうな川の近くの地域も一緒に、みんな（国・県・市町村・企業・住民など）で協力して水災害対策を行うという考え方。

ア 水害対策タンク　イ 雨水貯留タンク　ウ 治水タンク

■令和6年度時点の取組進捗状況

令和6年度までに1～3級を約67千人が受験し、約56千人が合格

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
流域治水の情報発信	くまもと「水」検定	R6時点		目標

更新 菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	熊本市ハザードマップ等を活用した情報発信	熊本市

○昨年12月の白川浸水想定区域図等の変更に伴い、今年3月に熊本市ハザードマップ（WEB版）を更新
○家屋倒壊等氾濫想定区域の設定及び道路冠水想定箇所、地下街・地下空間施設等の情報を新しく追加
○上記ハザードマップの活用については、出水期前に本市広報誌及びマスメディアを活用して周知啓発を行った

■取組内容の説明

出水期前に市政だより（6月号）で重点的に広報

令和7年3月31日に熊本市ハザードマップを更新

■令和6年度時点の取組進捗状況

熊本市ハザードマップ（スマートフォン版）の運用・更新、出水期前の積極的な周知啓発

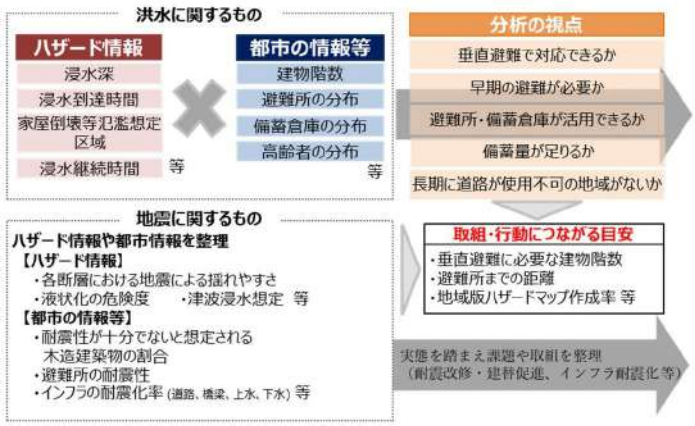
対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
出水期に向けた防災周知啓発	熊本市ハザードマップ等による周知啓発	R6時点 ハザードマップ等を活用した周知啓発		目標

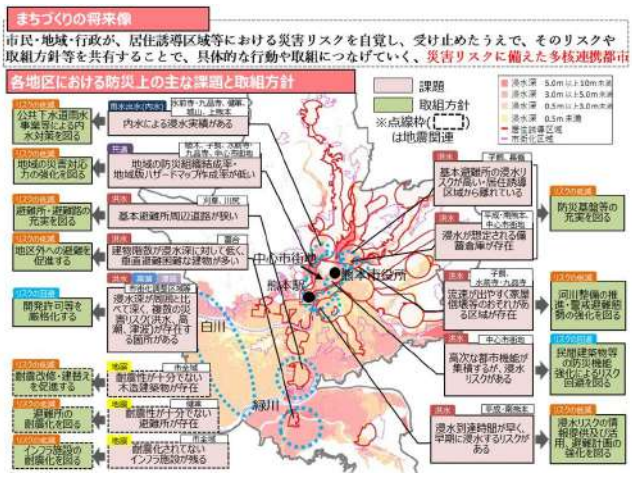
継続 菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害対象を減少させるための対策	立地適正化計画の策定（防災指針の追加を含む）	熊本市

○立地適正化計画に防災指針を追加し、災害リスクに備えた多核連携都市を目指す。
○居住誘導区域を中心に防災部局等の保有するハザード情報と都市部局が保有する都市の情報を組み合わせ災害リスクを分析。
○各地区の防災上の課題を踏まえ、関係部局と連携し災害リスクの回避や低減を図るための取組を総合的に組み合わせ展開。

■取組内容の説明





■令和6年度時点の取組進捗状況

令和3年3月の立地適正化計画改定により追加した“防災指針”を活用し、防災部局や市民部局などと連携した災害リスクの周知や各種取組の推進を図る。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫	立地適正化計画の策定（防災指針の追加を含む）	R6時点		目標

継続 菊池川水系流域治水プロジェクト 【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	雨水流出抑制	熊本市

〇一定規模以上（5000㎡）の開発行為に対する雨水貯 留施設(調整池)の 設置を推進
〇一定規模以上（1000㎡）の開発行為に対する雨水浸 透ます設置を推進
〇透水性舗装を推進

■熊本市での設置例

■ 開発区域の面積5,000㎡以上

5,000㎡以上の開発行為に対する
調整池の設置例

■ 開発区域の面積5,000㎡未満

1,000㎡以上の開発行為に対する
新設道路内、雨水浸透桝の設置例

■ 敷地内からの雨水流出抑制対策
透水性舗装等を推進

駐車場内の透水性舗装施工例

■令和6年度時点の取組進捗状況

開発行為申請に対し雨水流出抑制指導を行っている。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
雨水流出抑制	調整池、浸透施設の指導	R6時点		目標

【玉名市】

新規　菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	防災まち歩き地域ワーキング	玉名市

○指定避難所までのルートを、危険な箇所や気づきについて対話しながら歩き、防災のポイントについて地区の方と確認。
○早めの避難の重要性等について、再認識を図った。

■取組内容の説明

皆様からの主な意見

- 浄化センター前は地盤が低く、水がたまりやすい
- 歩道と車道の間の段差や縁石は冠水時につまずく恐れ
- 避難の際は、JR線を横断する必要があり、アンダーパス等が浸水する前に早めの避難が必要。

■令和6年度時点の取組進捗状況

令和6年11月に市内松木地区で防災まち歩き地域ワーキングを実施。
指定避難所までのルートを、危険な箇所や気づきについて対話しながら歩き、防災のポイントについて地区の方と確認を行った。

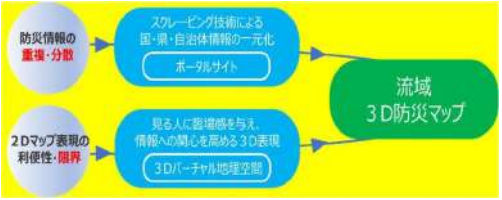
対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
水災害対策訓練の強化	まち歩き及び住民同士の意見交換	R6時点		目標

更新　菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	ICTを活用した河川情報の充実	玉名市

○令和5年9月4日から、防災・災害情報を迅速、的確に届けるため、熊本県の「令和5年度DX実証事業」を活用して、菊池川流域の防災・災害情報を確認できる「熊本県菊池川流域3D防災マップ」の提供（実証）を開始した。

■取組内容の説明



人が普段生活する感覚の3D空間に災害情報を集約した3D地理空間ポータルサイトを構築し、直観的に防災情報にアクセスできる環境を提供

https://3dbousai.4dlink.com/kumamoto

■令和6年度時点の取組進捗状況

菊池川流域の防災・災害情報を確認できる「熊本県菊池川流域3D防災マップ」の提供中（実証中）。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
災害リスク情報の充実	3D防災マップを活用した、情報発信の強化	R6時点		目標

更新 菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害対象を減少させるための対策	玉名市立地適正化計画の策定(防災指針の追加を含む)	玉名市

○立地適正化計画の策定(防災指針の追加を含む)により、災害リスクを考慮した安全なまちづくりを進める。
○災害リスク情報(浸水想定区域等)を活用した居住誘導区域の検討。
○居住誘導区域内外では、「防災指針」に基づく、防災・減災対策を検討。

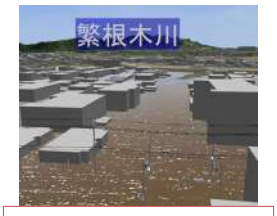
■R4年度の取組内容、進捗状況

令和4年度は、立地適正化計画の策定(防災指針の追加を含む)を行い、令和4年6月1日に公表。【策定(令和4年3月31日)】

☞玉名市立地適正化計画https://www.city.tamana.lg.jp/q/aview/507/21471.html

防災指針
ソフト対策

氾濫シミュレーション結果のリアルタイム表示



3D都市モデルと浸水シミュレーションの重畳

VR浸水シミュレーション表示

☞3D都市モデルを活用したソフト対策https://www.city.tamana.lg.jp/q/aview/118/25241.html

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まいの工夫	立地適正化計画の策定(防災指針の追加を含む)	R4時点		目標

■令和6年度の取組

○立地適正化計画の進捗管理(防災指針の進捗管理を含む)により、災害リスクを考慮した安全なまちづくりを進める。

○居住誘導区域内外では、「防災指針」に基づく、防災・減災対策の実施。

○六田地区での3D避難シミュレーションVRを作成、体験会を実施。

地域の方の体験:住民向け防災講話でのVR体験

六田地区住民の皆様向けに R6年11 月 6 日(水)13:30～ 六田公民館で VR 体験会を行った。

参加者の体験して感じたこと

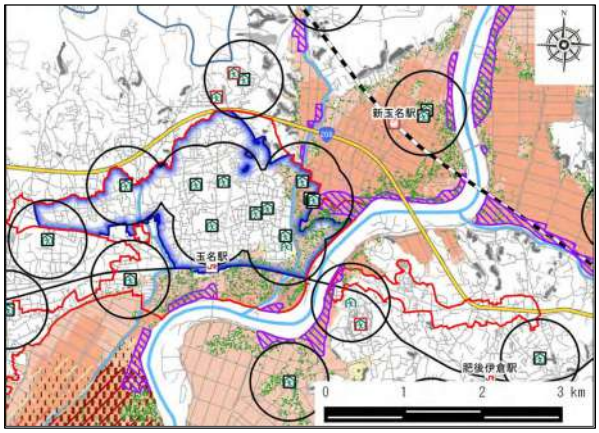
□雨や川の状況は急激に変わる場合があり、避難をためらって逃げ遅れると危険だとわかった
□低地に水流が押し寄せると逃げ場がないことが分かった
□河川と反対方向からも水があふれる状況（内水氾濫）があると知った
□地区の特性で高い建物が少ないため、逃げ遅れた場合の垂直避難が難しいことを知った
□改めてハザードマップを確認し、高台や避難経路を把握しておこうと思った
□自分（家族）の水害対策を見直し、避難情報に危機感を持とうと思った
□避難する際の様々なリスクについて知れたので、台風や大雨の際には早めに避難しようと思った

継続 菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

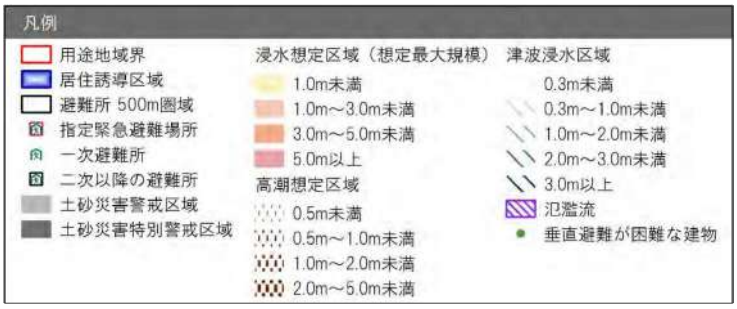
被害対象を減少させるための対策	立地適正化計画の策定(防災指針の追加を含む)	玉名市

○立地適正化計画の策定(防災指針の追加を含む)により、災害リスクを考慮した安全なまちづくりを進める。
○災害リスク情報(浸水想定区域等)を活用した居住誘導区域の検討。
○居住誘導区域内では、「防災指針」に基づく、防災・減災対策を検討。

■取組内容の説明



立地適正化計画において、現段階で計画規模の浸水想定区域に居住を誘導することは望ましくないとの判断から、計画規模の浸水想定区域は居住誘導区域外とするとともに、周辺整備にあたっては「嵩上げ等により洪水の被害を受けにくい拠点形成を目指す」。



■令和6年度時点の取組進捗状況

令和4年6月1日に立地適正化計画（防災指針を含む）を公表し、実行した。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まいの方の工夫	立地適正化計画の策定（防災指針の追加を含む）	R6時点		目標

継続 菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	防災行政無線、SNS等を活用し多様な手段での防災情報の発信	玉名市

○防災行政無線のほか、ＳＮＳ等を活用した、防災情報の配信を行い、多様的な手段で防災情報が取得できるよう、取り組みを行っている。

■取組内容の説明

防災メール・防災無線のほか、LINE等のSNSを活用し、防災情報の配信を行っている。

■令和6年度時点の取組進捗状況

放送障害・情報格差解消策として、取得困難者に防災戸別受信機の無償貸与を実施中。

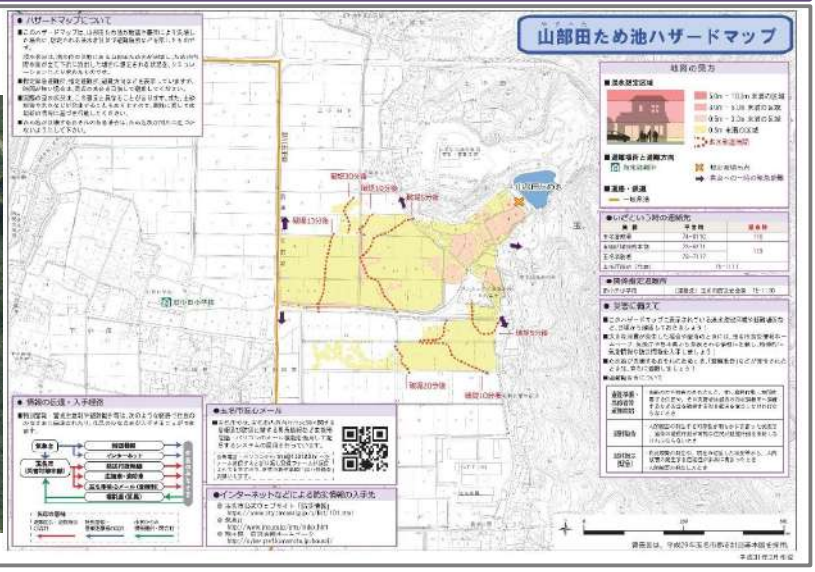
対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
土地の水災害リスク情報の充実	防災メール・防災行政無線・SNS等を活用した、情報発信の強化	R6時点		目標

完了 菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	ため池ハザードマップの作成	玉名市

○ハザードマップを作成し、地域住民に周知することで、被害の軽減を図る。

■取組内容の説明



■令和5年度時点の取組進捗状況

令和4年度までで33ヶ所のため池ハザードマップを作成済み。
令和5年度で防災重点ため池全57ヶ所が作成完了。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
ハザードマップの作成	ため池ハザードマップの作成	完了		

■1）②災害発生を想定した事前準備【自助】【玉名市】

■子供や高齢者へ、パーソナルカード（名前、連絡先、血液型等の情報を記載）の準備を促す啓発

○大規模災害時に、高齢者や障がい者の人々を安全に避難誘導するために、平常時からこれらの人たちを、地域で見守る体制づくりを目指すことを目的に、避難行動要支援者支援制度を設けており、令和６年度に改めて、民生委員や区長等へ周知を行い、制度の活用を呼び掛けた。

避難行動要支援者支援制度

更新日：2024年6月11日

大規模災害時に、高齢者や障がい者の人々を安全に避難誘導するために、平常時からこれらの人たちを、地域で見守る体制づくりを目指します。

避難行動要支援者とは

避難行動要支援者とは、一人で災害に対応することが困難な人です。

1. 一人暮らしの高齢者(高齢者のみの世帯を含む)
2. 要介護度3以上の高齢者
3. 寝たきり状態の高齢者、認知症高齢者
4. 重度の身体障がい者(肢体不自由3級以上、視覚障がい2級以上、聴覚障がい2級、内部障がい1級)
5. 重度の知的障がい者(療育手帳A1またはA2を有する人)
6. 精神障がい者
7. 妊産婦、乳幼児
8. 難病患者
9. その他一人では避難することが困難な人

なお、病院、福祉施設などに入所している人は、支援体制が整っていると考えられますので、居宅の人のみが対象になります。

避難行動要支援者の登録

避難行動要支援者が、市役所に避難支援者(主に家族や近所に住む人で、災害時に避難支援をしてくれる人)の名前などを記入した登録申請を行い、市が管理する避難行動要支援者台帳に登録します。登録申請書は以下のとおりです。

- 避難行動要支援者避難支援計画(申請書)(WORD 約23KB)

作成された登録台帳(毎年更新を行います。)は、民生委員児童委員、区長、避難支援者、防災関係機関の人々へ名簿を送付し、日頃の地域での見守り、災害発生時の要援護者の情報伝達や避難支援活動に役立てられます。

避難行動要支援者のご近所の人へ

この制度は、避難行動要支援者に対する普段からの見守りや、災害時に災害情報を伝えたり一緒に避難していただく人(避難支援者といいます。)の協力が必要です。ご近所や周りに登録しようとしている人がおられる場合や、避難支援者として協力のお願いがある場合など、また、区長さんや民生委員・児童委員がご相談にこられた場合など、ご協力お願いします。

【山鹿市】

新規　菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	防災まち歩き地域ワーキング	山鹿市

〇避難場所までの危険箇所を洗い出し、新たな気づきを住民同士で共有できた。
〇浸水エリアを理解し、早めの避難の重要性を認識できた。

■取組内容の説明

〇まち歩きする上での着目点

- あふれた水がたまりそうな地形でないか？
- 坂などで水の流れが速くなる地形でないか？
- 高齢者や足の不自由な方も歩けるか？
- 夜でもスムーズに歩けるか？
- 一時的に避難できる施設はないか？
- どのタイミングで避難を始めるとよいか？

いざというときに安全に避難するために大事なこと

・洪水が起こる前にすばやく避難すること
・避難の判断材料として、正確な情報や過去の被災経験を活用すること
・日ごろから住民同士で声を掛け合い、防災の輪を広げること

■令和6年度時点の取組進捗状況

令和6年6月に市内で浸水歴のある宗方地区で実施済み。
令和7年度は他地域の浸水エリアにおいても避難所までのまち歩きを実施予定。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
水災害対策訓練の強化	まち歩き及び住民同士の意見交換	R6時点		目標

完了 菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	雨水ポンプ場の更新	山鹿市

○ 内水被害の解消に向けた設備の維持を目的として、菊池川と吉田川合流部に位置する宗方ポンプ場において老朽化に伴う揚水ポンプの更新を実施。

■取組内容の説明

事業箇所

ポンプ本体・原動機・減速機等2基の更新

■令和5年度時点の取組進捗状況

令和3年度から3箇年でポンプ2基の更新を実施し、令和4年度は2基目の製作を行い、令和5年度はポンプの据え付け実施し完了。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
内水氾濫対策	雨水ポンプの更新	完了		

完了 菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	ため池ハザードマップの作成	山鹿市

○ハザードマップを作成し、地域住民に周知することで、被害の軽減を図る。

■取組内容の説明

山口ため池（小原地区）

■令和6年度時点の取組進捗状況

令和5年度で現在指定されている防災重点ため池の全箇所（141箇所）作成が完了。（廃止予定2カ所除く）

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
ハザードマップの作成	ため池ハザードマップの作成	完了		

■1）⑤防災情報の提供【平常時の情報】【山鹿市】

■ **想定し得る最大規模の降雨を対象とした洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域、津波、高潮等を踏まえたハザードマップ及び避難計画の見直し**

〇浸水想定区域、土砂災害警戒区域、内水浸水想定区域、避難場所等を記載した地域別ハザードマップを作成し、令和7年3月に全戸配布を行った。
〇やまがデジタルマップ（公開型GIS）で、令和７年５月から運用開始。

〇山鹿市内を流域とする菊池川水系等について、国や熊本県が公表する最新の浸水想定区域、熊本県により区域指定された最新の土砂災害（特別）警戒区域に基づき、現在の「山鹿市総合防災マップ（2017年3月発行）」の更新を行うもので、各種防災の情報をより分かりやすく収録し地域防災力の向上を図ることを目的として作成を行っている。

〇また、災害時の持ち運びや、平常時の家庭内での話し合いにも活用しやすいよう、実効性に優れた「山鹿市地域別ハザードマップ」を作成している。

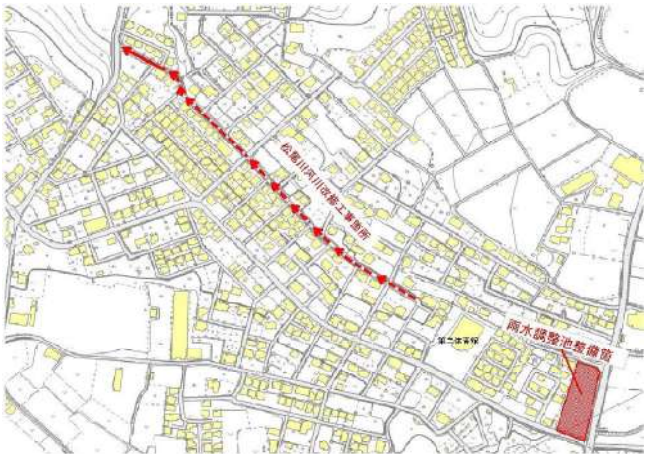
【菊池市】

新規 菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河川改修工事及び雨水調整池の整備	菊池市

○氾濫による被害を軽減するため、雨水の流出抑止対策として、松尾川河川改修工事と併せて、雨水調整池の整備を行う。

■取組内容の説明



■令和6年度時点の取組進捗状況

平成29年度～令和6年度にかけて松尾川河川改修工事が完了した。令和7年度に調整池整備工事を実施予定。

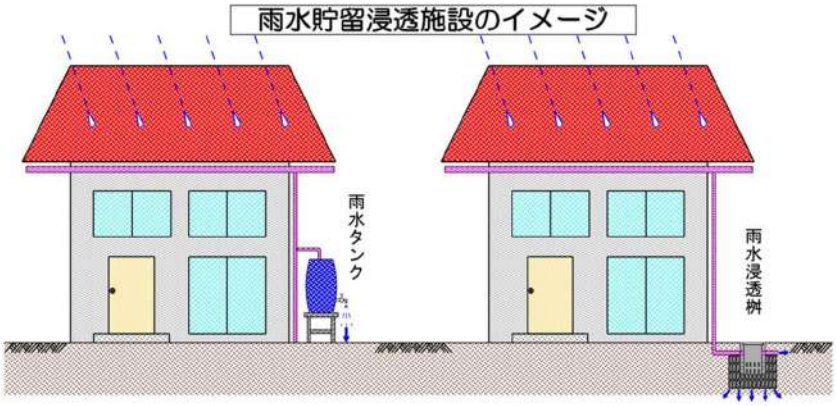
対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
雨水流出抑制	調整池の整備	R6時点 目標		

更新 菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河川等への流出を抑制する雨水貯留浸透ます設置	菊池市

○熊本県菊池市において、住宅等の屋根に降った雨水を地下に浸透させて、河川・道路等へ流出する量を減らし、流出するまでの時間を遅らせることにより、河川への流出を抑制し、道路等の冠水被害を軽減する雨水浸透ますの設置補助を実施。

■取組内容の説明



■令和6年度時点の取組進捗状況

令和6年度の雨水浸透ます設置申請に対し、 件（ 基）の補助を実施予定。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
流域の雨水貯留機能の向上	雨水浸透ます、浸透官の設置推進	R6時点		目標

更新 菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	内水氾濫対策	菊池市

○平成24年九州北部豪雨により、菊池市赤星地区では、家屋の浸水被害が発生した。災害防止のため、緊急時に排水ポンプを設置し、赤星地区内の排水を行う。

■取組内容の説明

■令和6年度時点の取組進捗状況

令和4年度にポンプ及び発電機を購入し、梅雨時期に備えたものの、現時点まで幸い稼働するには至っていない。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
内水氾濫対策	排水ポンプ施設等整備	R6時点		目標

更新 菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	防災情報配信の強化	菊池市

○熊本県菊池市において、防災無線や個別受信機からの情報を日常・災害時問わず、スマートフォンやタブレット端末を利用して、確実に情報を受け取れる「きくち防災・行政ナビ」の配信を実施。また、防災・火災・防犯・交通に関する緊急連絡を迅速かつ正確に行うことを目的に「菊池安心メール」を運用。

■取組内容の説明　　「きくち防災・行政ナビ」「菊池安心メール」を活用した情報発信

「菊池安心メール」

インストール数

「きくち防災行政ナビ」

2024年12月	11, 554件
2023年12月	11, 845件
2022年12月	10, 679件
2021年12月	8, 828件

「菊池安心メール」

2024年12月	5, 350件
2023年12月	5, 222件
2022年12月	4, 845件
2021年12月	4, 651件

■令和6年度時点の取組進捗状況

令和6年度も様々な防災教育や防災訓練の場面で「きくち防災・行政ナビ」の普及啓発を図り、アプリインストール数も一定の水準を保っている。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
土地の水災害リスク情報の充実	防災メール、防災行政情報システム、防災行政無線等を活用した情報発信の強化	R6時点		目標

■１）①水防学習・教育の推進【菊池市】

■　防災に関する持続性のあるイベント等の企画、実施

〇令和６年11月10日に菊池市の七城総合グラウンドで、総合防災訓練を実施した。
　住民や消防団、警察、自衛隊、消防等の協力機関による避難訓練や救助訓練、防災資器材の展示、炊き出し等を行うと共に、今回新たに自動車学校(２校)の協力を得て、ドローンによる捜索訓練を行った。

【荒尾市】

■ 災害発生を想定した事前準備【共助】(1)　　【荒尾市】

■ 地域の防災リーダー育成の支援を実施

〇防災士の連携や交流を目的に、令和６年８月４日荒尾市防災士会を設立した。
〇荒尾市防災士会設立総会の後に、男女共同参画の視点から防災を学ぶ目的で研修会を開催した。

防災士会設立総会

防災士会研修
講師：浅野幸子氏
（減災と男女共同参画研修推進センター）

■水防学習・教育の推進(1)　　【荒尾市】

■ 防災に関する継続性のあるイベント等の企画、実施

〇令和６年９月1日（日）に荒尾総合文化センターにおいて開催したあらお防災フェスタにおいて、来場した子供たちに水防に関する学習の一環として、降雨体験及び浸水ドアなどの体験コーナーの開設した。また、防災グッズや食料品の事前準備を促す啓発活動を行った。

浸水ドア体験

降雨体験

防災グッズなどの啓発・展示

■ 災害発生を想定した事前準備【共助】(1)　【荒尾市】

■ 地域の防災リーダー育成の支援を実施

〇地域防災リーダー育成のため、令和6年１１月2日、１6日、17日に長洲町、大牟田市、南関町と合同で防災士養成講座を実施した。

防災士養成講座の様子

■災害発生を想定した事前準備【共助】(1)　【荒尾市】

■ 高齢者等の災害時要配慮者を対象とした避難確保計画の作成、訓練の検討、実施

〇令和6年11月24日（日）の荒尾市総合防災訓練において避難行動要支援者の避難支援訓練を実施した。

避難所における要支援者
の健康管理指導

避難所における要支援者
の健康管理指導

【玉東町】

継続 菊池川水系流域治水プロジェクト 【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	自然地の保全	玉東町

○氾濫による被害を軽減するため、雨水の流出抑止対策として、木葉山の森林保全、農地の適正な管理により涵養施設としての維持管理を進めていく。

○山林の有する公益的機能による水質の維持向上を図るため、水源かん養林の維持を計画的に進めます。
○新たな森林経営管理制度の運用により、適切な森林経営が行われていない森林の経営管理を林業経営体に集積・集約化を進めます。
○身近な自然、生き物などに対する学習を通じて、住民の地球環境や自然環境に対する意識の向上を図り、持続可能な社会の実現を目指します。

■令和6年度時点の取組進捗状況

自然地の保全箇所について、維持管理を実施している。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
流域の雨水貯留機能の向上	自然地の保全	R6時点		目標

完了 菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	防災調整池の整備	玉東町

○氾濫による被害を軽減するため、雨水の流出抑止対策として、木葉川河川改修工事と併せて、防災調整池の整備を行う。

■取組内容の説明

平常時は、ふれあい広場として子供たちの遊び場として利用している。

■令和4年度時点の取組進捗状況

社会資本整備総合交付金（当時は、まちづくり総合支援事業）を活用し、防災調整池の整備を平成18年に完了した。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
流域の雨水貯留機能の向上	防災調整池の整備	完了		

■ 1）④災害発生を想定した事前準備【公助】【玉東町】

■ 市町村庁舎や災害拠点病院等の機能確保のための対策の充実（耐水化、非常用発電等の整備）

○令和６年５ 月 １ 日、役場新庁舎が完成。様々な災害に強い安全で強固な鉄筋コンクリート造りとなっている。また、発電機と蓄電池を兼ね揃えており、電力確保に関する不安を払拭。
○庁舎３ 階には、災害時に災害対策本部としての機能を発揮できる大会議室を設けている。

○令和6年5月に完成した役場新庁舎

屋上には太陽光パネルが設置されており、昼間に使用する電力を100%以上を賄うことができます。

○災害対策本部機能

・平時

・災害時

【和水町】

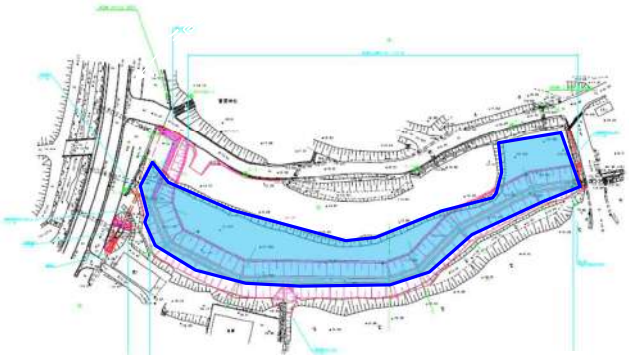
更新 菊池川水系流域治水プロジェクト 【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	雨水排水施設等の整備、貯留池の事前放流	和水町

○大型水路を整備して、町道の流末排水機能を向上させることにより、道路・宅地の湛水被害を軽減させる。
○貯留機能向上のため、ため池の貯留池、排水ゲートを整備することにより、出水期前に事前放流を行う。

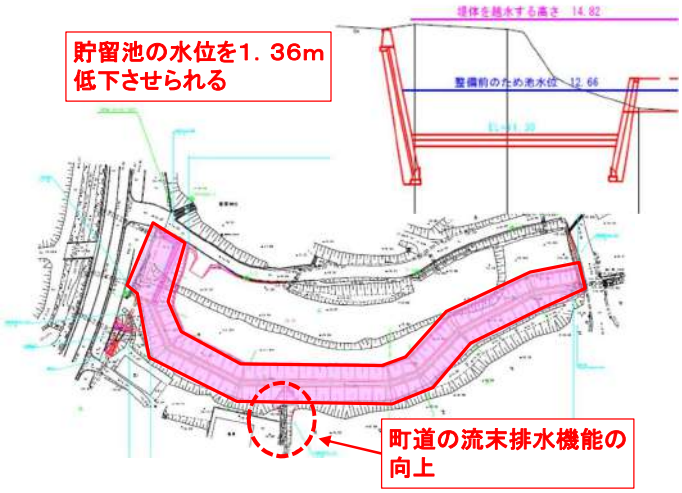
■取組内容の説明

菊池川　内藤橋左岸付近



藤田地区

貯留池の水位を1．36m
低下させられる



町道の流末排水機能の
向上

■令和6年度時点の取組進捗状況

排水施設整備工事を実施している。（令和6年度で整備完了）

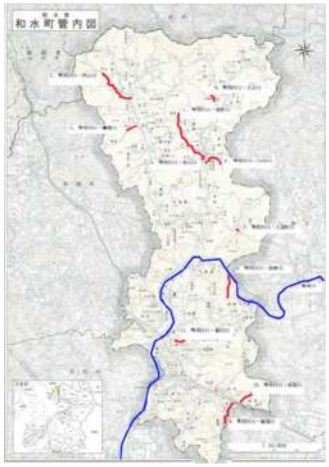
対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
ため池の補強・有効活用	雨水排水施設等の整備 貯留池の事前放流	R6時点		

更新 菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道掘削	和水町

○河道掘削を行い、浸水被害防止を図る。

■取組内容の説明



掘削予定位置図

・令和6年度までに、町内を流れる準用河川のうち14河川の堆積土砂掘削を計画
・令和7年度に新たに3河川を計画に追加し、7河川の堆積土砂掘削を予定。

蜻浦川の掘削状況（令和5年度実施）

■令和6年度時点の取組進捗状況

日向川他3河川の河道掘削を令和5年度までに完了している。
浦部川他9河川の河道掘削を実施している。

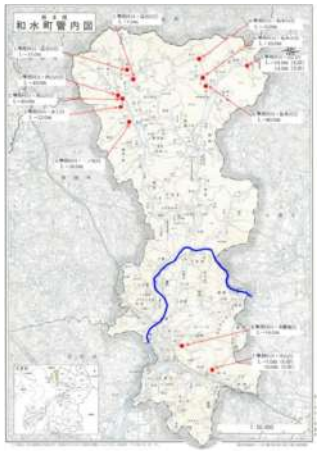
対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
河道掘削	河道掘削	R6時点 目標		

新規 菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	護岸整備	和水町

○護岸整備を行い、浸水被害防止を図る。

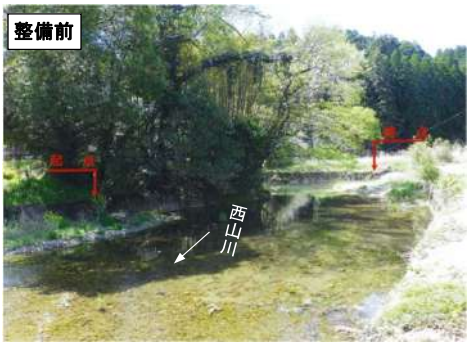
■取組内容の説明



護岸整備予定位置図

・令和5年度に、町内を流れる準用河川のうち1河川の護岸整備を実施。
・令和6年度に、町内を流れる準用河川のうち8河川の護岸整備を予定。
・令和7年度に、町内を流れる準用河川のうち8河川の護岸整備を計画。

西山川の護岸整備状況（令和5年度実施）



■令和6年度時点の取組進捗状況

西山川の護岸整備を令和5年度に完了している。
長谷川他7河川の護岸整備を実施している。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
河道掘削	河道掘削	R6時点 目標		

継続 菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

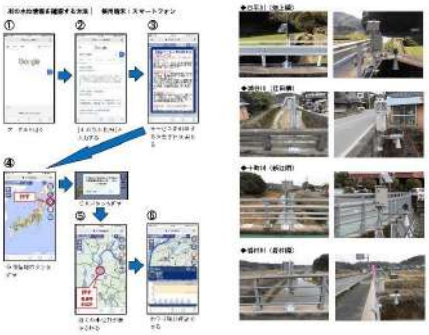
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	防災情報発信の強化	和水町

○防災行政無線や和水町公式LINE等を活用した情報発信の強化
○水位計、監視カメラによる河川状況の確認

■取組内容の説明

①出水期前の全戸配布資料

災害時における防災行政無線※での情報発信に加え、出水期前に町内全戸に注意喚起・避難場所及び緊急連絡先を記載した資料を配布（情報の見える化）し、防災意識の向上・災害時における連絡体制の構築を図っている。



②危機管理水位計説明資料

県設置の危機管理水位計について、操作方法の説明会を実施し、豪雨時における有益な情報取得を促進している。

③和水町公式LINEによる情報発信

非常時における情報発信手段として、公式LINEを利用。外出先でも情報収集が可能。また、各リンクにもアクセス可能でより幅広い情報の収集が可能。

■令和6年度時点の取組進捗状況

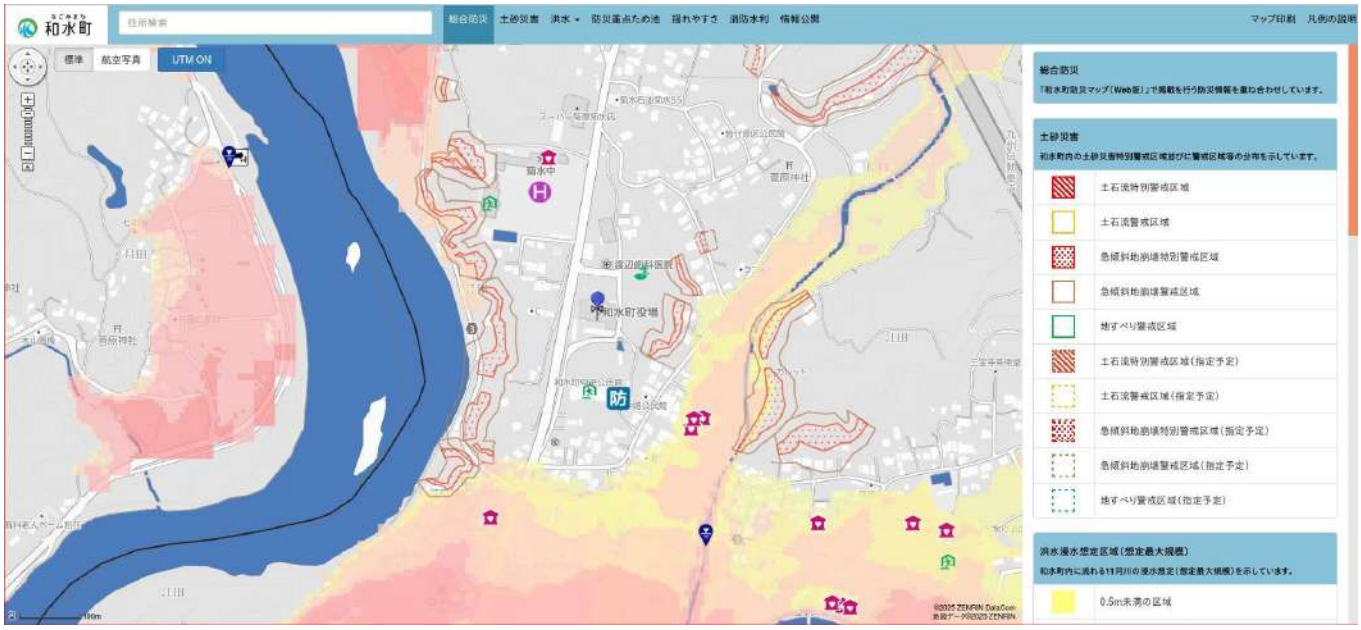
災害時における防災行政無線での情報発信に加え、出水期前に町内全戸に注意喚起・避難場所等を記した資料を配布。
県設置の危機管理水位計について、操作方法の説明会を実施。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
土地の水害リスク情報の充実	防災情報発信の強化	R6時点		目標

■ 1）⑤防災情報の提供【平常時の情報】【和水町】

■ 想定し得る最大規模の降雨を対象とした洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域、津波、高潮等を踏まえたハザードマップ及び避難計画の見直し

○令和５年度に、『和水町総合防災マップ』を更新・作成し、全世帯に配布。また『和水町総合防災マップWEB版』を作製。
○令和６年６月に『和水町総合防災マップWEB版』を一般に公開。



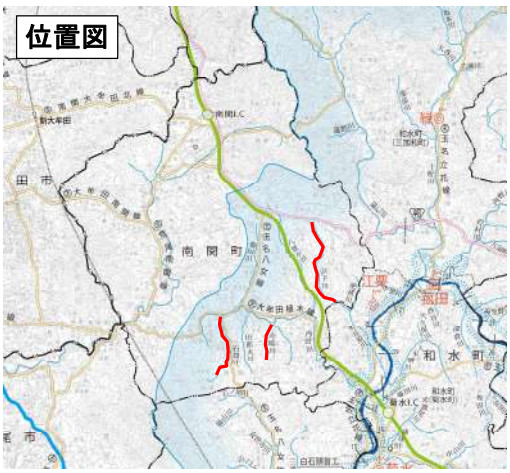
【南関町】

更新 菊池川水系流域治水プロジェクト 【流域治水対策内容のフォローアップ】

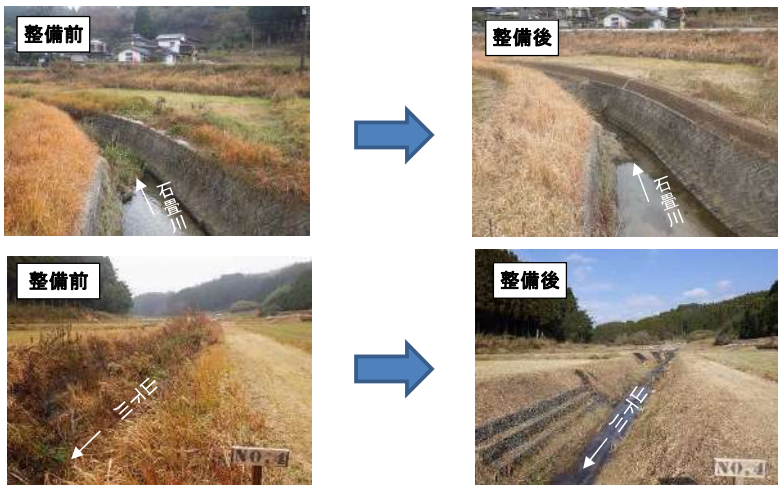
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道掘削	南関町

○河道掘削を行い、浸水被害防止を図る。

■取組内容の説明



石畳川・山下川の掘削状況（令和6年度実施）



■令和6年度時点の取組進捗状況

石畳川・山下川・大場川の河道掘削を実施。
令和7年度以降も河道掘削を実施予定。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
河道掘削	河道掘削	R6時点		目標

完了 菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害対象を減少させるための対策	防災広場調整池整備	南関町

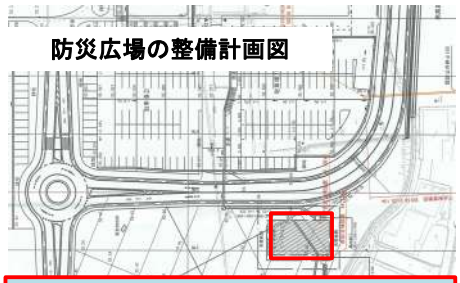
○防災広場の整備で地下埋設型調整池を設置し、集中豪雨に対応する。

■取組内容の説明

完成写真

地下埋設型調整池設置完了（令和4年1月）

防災広場の整備計画図



貯留槽設置完了

■令和4年度時点の取組進捗状況

防災広場に地下埋設型調整池（約500m³）を設置しており、敷地内の雨水を集約・貯留し、流量を調整する機能をもつ。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
防災広場の調整池の設置	地下埋設型調整池の設置	完了		

■ 1）①水防学習・教育の推進【南関町】

■ 防災に関する継続性のあるイベント等の企画、実施

○令和６年6月29日に南関中学校で、防災士による防災講話を実施した。
自宅周辺や通学路の危険な場所をハザードマップでの確認の呼びかけや、拡張現実（AR）カメラで町内の河の水位が上がった状態を見る体験も実施した。

■ 1）①水防学習・教育の推進【南関町】

■　防災に関する持続性のあるイベント等の企画、実施

〇令和６年10月27日に南関町大原地区を対象に防災訓練を実施した。今回は災害対策本部を設置し自主防災組織、南関町消防団、社会福祉協議会との情報伝達訓練及び福祉課職員を中心とした避難所運営訓練を行った。

〇情報伝達ではNECとdocomoの協力のもと災害時でも使用できるシステムを利用し災害対策本部と避難所を繋ぎ情報共有を行った。

【長洲町】

■ 1）①水防の学習・教育の推進【長洲町】

■防災に関する継続性のあるイベント等の企画、実施

○昨年度に引き続き防災フェアや小学生を対象にしたJr.防災リーダー塾の開催、また地域防災リーダー育成のため長洲町・荒尾市・南関町・大牟田市と合同で「防災士養成講座」を実施。
○B&G財団より配備された機材を使用して、避難所運営訓練の開催や、各資機材の操縦習熟のため救助艇や重機操作訓練を継続的に実施。

【避難所運営訓練】

【Jr.防災リーダー塾】

【第37回金魚と鯉の郷まつり　防災フェア】

【重機や救助艇を使った訓練】

【合志市】

■ 1）①水防学習・教育の推進【合志市】

■　防災に関する持続性のあるイベント等の企画、実施

〇令和６年10月20日に合志市総合防災訓練を実施した。旧西合志町の黒石コミュニティー及び旧合志主体の楓の森校区の自治会や社会福祉協議会、消防、自衛隊等の関係機関、当日見学者など1,７０５人が各自治会の訓練や黒石防災拠点センター、合志楓の森小・中学校、ふれあい館での指定避難所開設訓練、各種体験訓練に参加した。併せて社会福祉協議会主催でボランティアセンター開設訓練を実施した。

避難者受入れ（受付）

テントの展張訓練

段ボールベッド作成訓練

指定避難所：黒石防災拠点センター

マンホールトイレ組立

かまどベンチ組立

防災井戸体験

指定避難所：楓の森小中学校

避難者受入れ（受付）

テントの設置

テントの設置

（水）消火器操作訓練

煙体験

マンホールトイレ組立

指定福祉避難所：ふれあい館（社会福祉協議会）

準備ミーティング

市との調整

福祉車両による搬送

自衛隊車両による輸送

市職員による受付

社協職員による聞取り

■ 1）③災害発生を想定した事前準備【共助】【合志市】

■地域の防災リーダー育成の支援を実施

〇合志市防災士連絡協議会は、防災士の資格を得て合志市に在住し、又は勤務する者で構成されており、防災士相互の連携を図るとともに、防災に必要な知識、技能等を高め、地区の自主防災組織をはじめ、合志市全体の防災力の向上に寄与することを目的として平成30年8月6日に設立されている。
〇令和６年１１月１６日に、市社会福祉協議会事業である「地域版子ども大学こうし」に防災士が講師として参加し、参加者である小学生6名に講義「防災士について知ろう！」とワークショップとして小学生向けに作成した避難所運営 ゲーム（ＨＵＧ）を実施した。

避難所のレイアウトについてアドバイスをする防災士

更衣室や授乳室の配置について話し合う

■ 1）③災害発生を想定した事前準備【共助】【合志市】

■地域の防災リーダー育成の支援を実施

〇合志市防災士連絡協議会は、昨年度からスペシャル防災士育成プロジェクトを開始した。これは、防災士のスキルアップによる地域防災力の向上施策のひとつであり、平常時や災害時に市や地域と連携して活動することを目的に防災に関する訓練や研修を行い、「ＳＰ（スペシャル防災士」を育成する。今年度はSP防災士を養成するためのプログラムを作成し、防災士8名の養成訓練を開始した。また、この事業について、熊本市で開催された「ぼうさいこくたい２４」のステージ発表において紹介をした。

目　的	1　防災組織(防災士連絡協議会)の充実 ⇒各支部ごとの防災力強化 2　防災士のスキルアップ ⇒組織全体の底上げ 3　災害時における市及び地域と連携した災害対応行動 ⇒避難所運営に関する助言や被害状況の情報収集･報告など
達成すべき目標	●　共通事項(必須)を除き、年齢や性別、専門的知識･技能等を考慮し、個々に達成すべき目標を確立することが必要 0　共　通(必須) ①　防災士として基本的な知識や技能を保持している。 ②　合志市の災害対策本部の機能及び災害対応要領について理解しており、密接な連携ができる。 ③　地区の連絡員として活動できる。 1　平常時 ①　地域や学校において、防災に関する講義ができる。 ②　地域や学校において、防災訓練に関する指導ができる。 2　災害時 ①　情報収集･分析により被害の軽減を図ることが出来る。 ②　地区の運営する災害対応について、アドバイスができる。 ③　負傷者等への処置がおおむね実施できる。 3　災害発生後 ①　ボランティア活動の概要を理解している。 ②　資材の取扱い等おおむね指導できる。 髙山会長による発表 （ぼうさいこくたい24）

■ 1）③災害発生を想定した事前準備【共助】【合志市】

■地域の防災リーダー育成の支援を実施

〇ＳＰ防災士は、12月14日（土）、育成プロジェクトの一環として、玉名市にある「ありあけ防災館」で研修を行った。ありあけ防災館は、玉名市の有明広域消防本部内にある防火・防災に関する学習施設である。ＳＰ防災士はパネル展示や映像、災害体験といった研修を通じて災害に関する基礎的な知識を深めた。

東日本大震災に関する講義

映像による災害体験

水消火器による消火体験

火災発生時の119番への通報体験

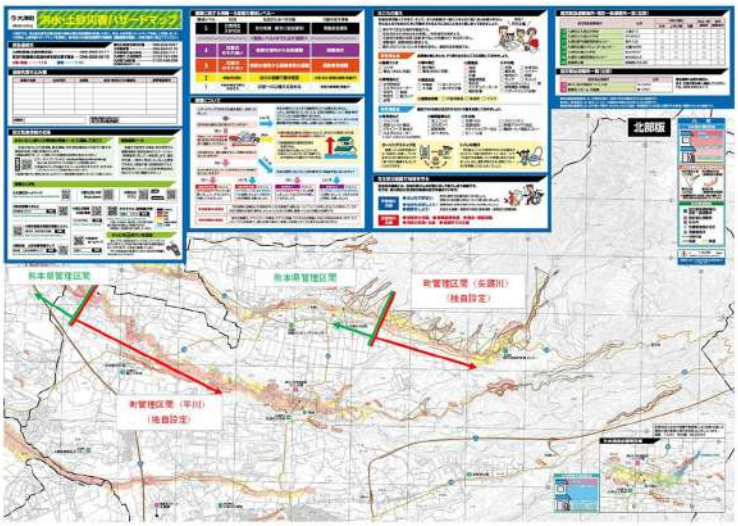
【大津町】

完了 菊池川水系流域治水プロジェクト 【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	町管理河川の洪水浸水想定区域設定	大津町

○菊池川水系である矢護川と平川について、熊本県管理区間においては洪水浸水想定区域が設定されていたが、町管理区間には洪水浸水想定区域が設定されていなかった。過去には町管理区間において洪水被害が生じたことも踏まえ、町独自に町管理区間においても洪水浸水想定区域を設定し、ハザードマップを更新・周知する。

■取組内容の説明



■令和5年度時点の取組進捗状況

町管理区間の洪水浸水想定区域設定、ハザードマップの更新・周知が完了した。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
土地の水災害リスク情報の充実	町管理区間の洪水浸水想定区域設定 ハザードマップの更新・周知	完了		

完了 菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	ため池の補強・有効活用	大津町

○菊池川水系平川に流入する農業用ため池が豪雨時に決壊しないための堤体部強化を行う。

■取組内容の説明

着工前

竣工

■令和4年度時点の取組進捗状況

堤体法面の整備及び水位計、監視カメラの設置を行った。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
ため池の補強	堤体法面の整備	完了		

完了 菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	河川監視カメラの設置	大津町

○菊池川水系である矢護川と平川について、定点カメラ（静止画像）を設置していたが、ライブカメラに切り替えることにより監視体制を強化する。

■取組内容の説明

■令和4年度時点の取組進捗状況

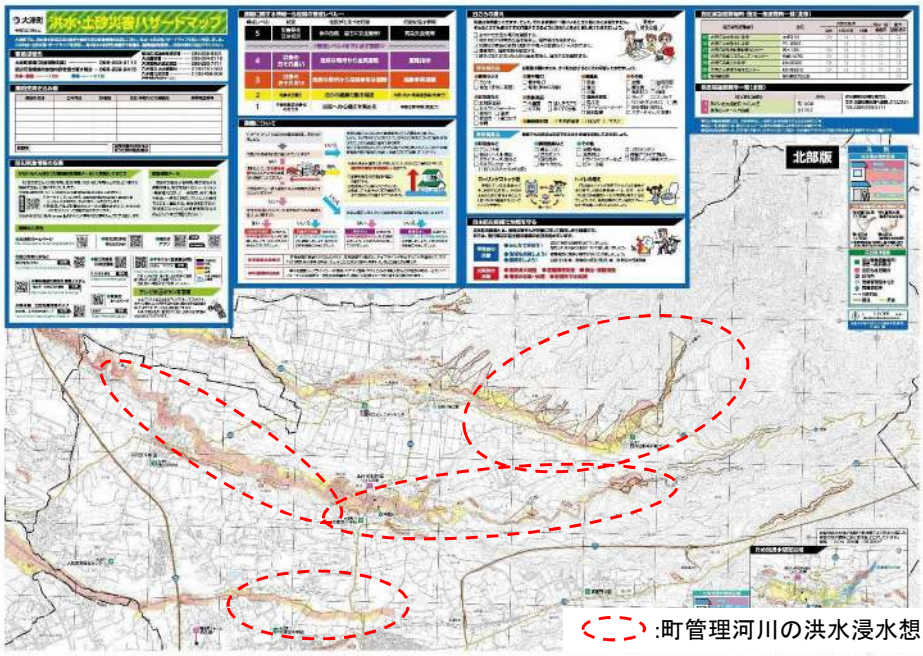
河川監視カメラの設置が完了した。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
土地の水災害リスク情報の充実	河川監視カメラの設置	完了		

■ 1）⑤防災情報の提供【平常時の情報】【大津町】

■ **想定し得る最大規模の降雨を対象とした洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域、津波、高潮等を踏まえたハザードマップ及び避難計画の見直し**

〇令和5年３月に、大津町洪水・土砂災害ハザードマップを作成した。
〇大津町では、県管理河川だけでなく、町管理河川の洪水浸水区域を検討し、ハザードマップを作成している。
〇令和６年度にもハザードマップを継続して周知。



:町管理河川の洪水浸水想定区域

■ 3）①防災情報提供を支援するハード整備【大津町】

■ **自治体への光ケーブル接続とカメラ映像配信のための環境整備に関する検討、整備**

〇町管理河川の水位状況を光ケーブル接続によりリアルタイムに確認できるカメラを設置。
これまでは、町災害対策本部でのみ確認していた。
令和６年度に町HPと連携させ、住民個人が誰でも確認することができる仕組みを導入した。

町管理カメラ　7箇所（菊池川水系４箇所）
＋　国・県カメラのHPへも外部リンク

【熊本地方気象台】

更新 ■令和6年度の防災等に関する取り組み　【熊本地方気象台】

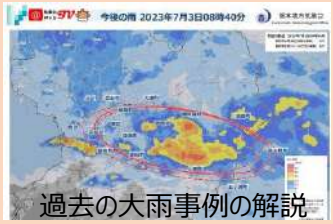
市町村における地域防災支援のための気象解説について、Web会議を活用した定期的な気象解説、および悪天時の常時接続等の実施により改善

- 県、市町村、報道機関等を対象として出水期（6月～10月）の毎週金曜日にWeb定時気象解説（1週間先までの見通し）及び気象解説資料の提供
- 大雨の**警報級の可能性が高まった場合**等は**WEB臨時気象解説を実施**、さらに複数市町村への**土砂災害警戒情報等の警戒レベル4相当**情報発表が想定される場合は、県及び市町村、河川事務所への**WEB解説を常時接続**にして、リアルタイムで**相互に情報交換ができる環境**を整えている。

定期的なWeb気象解説
毎週金曜11:30～

当日スケジュール
～10時開催案内(解説内容・URL)
～11時半　資料送付
11時30分～定時気象解説

解説内容
・季節に応じた天気の見通し
・要望に応じた気象知識
・地震火山に関する知識



過去の大雨事例の解説

臨時のWeb気象解説
（悪天時常時接続）

解説内容
・天気の見通し(現象のピークなど)
・警報等発表の見通し
・警報等解除の見通し

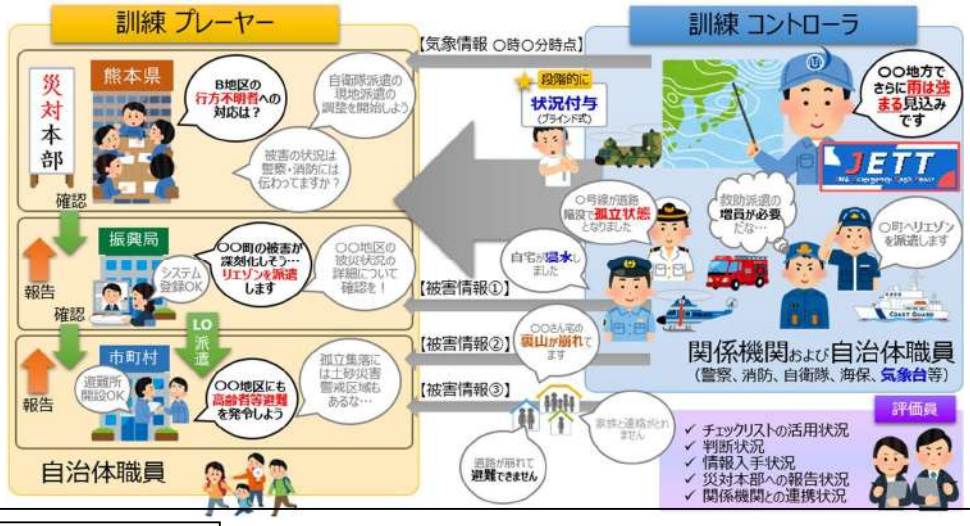
解説資料の提供

悪天時の常時接続の様子

更新 ■令和6年度の防災等に関する取り組み　【熊本地方気象台】

- 熊本県が行う令和2年7月豪雨を教訓に防災担当職員の対応能力向上および関係機関との連携強化を図る豪雨対応訓練への参加協力
- 令和6年は東京大学先端科学技術研究センターClimCORE（クライムコア）と連携し、再解析（平成29年7月九州北部豪雨）データを利用した訓練を玉名市、菊池市、阿蘇市で実施

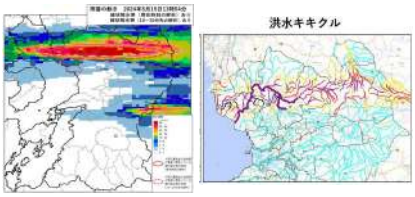
訓練当日全体のイメージ



訓練の様子

気象台の役割

- **気象情報に関連するシナリオ作成**
- **市町村に特化した付与資料（防災情報等）の作成**
- コントローラ役としての訓練参加、**JETT派遣を想定した災害警戒本部運営訓練等での気象解説**（令和6年は県に７回と８市町村に派遣）



※再解析データによる解析雨量、キキクル

■１）⑥防災情報の提供【災害時の情報】【熊本地方気象台】

防災気象情報の改善

■防災気象情報の改善について

- 「防災気象情報に関する検討会」の最終とりまとめが令和6年6月18日に公表され、このとりまとめを踏まえた新たな防災気象情報について、令和８年度出水期からの運用開始を目指して準備を進めている。

- **新たな防災気象情報では、５段階の警戒レベルをベースに、災害発生の危険度の高まりに応じて情報を発表**する。この方針のもとで、警戒レベル４相当となる危険警報の新設や、洪水関係の情報変更、気象防災速報の新設など、現在の防災気象情報から大きな変更が生じる。

＜主な変更点＞

- 洪水害・大雨浸水害・土砂災害・高潮害に関連する防災気象情報を５段階の警戒レベルにあわせて整理。
- 警戒レベル４相当となる「レベル４●●危険警報」の新設。
- 洪水関係の情報変更（水位周知河川に関する情報等）
- 記録的短時間大雨情報や顕著な大雨に関する気象情報等を気象防災速報として整理

等

■１）⑥防災情報の提供【災害時の情報】【熊本地方気象台】

防災気象情報の改善

○ **シンプルでわかりやすい防災気象情報の再構築に向け、防災気象情報全体の体系整理や個々の情報の見直し、受け手側の立場に立った情報への改善などを取りまとめ。**

警戒レベル相当情報の体系整理

◎ **シンプルでわかりやすい情報体系・名称に整理**

【洪水】：氾濫による社会的な影響が大きい河川（洪水予報河川、水位周知河川）の外水氾濫を対象とし、河川ごとの情報とする。
これ以外の河川の外水氾濫については、内水氾濫と併せて市町村ごとに発表する【大雨浸水】に関する情報とする※1。
【土砂災害】：発表基準の考え方を統一し、災害発生の確度に応じて段階的に発表する情報とする。
【高潮】：潮位に加えて沿岸に打ち寄せる波の影響を考慮し、災害発生又は切迫までの猶予時間に応じ段階的に発表する情報とする。

		洪水に関する情報「洪水危険度」 氾濫による社会的影響大の河川（洪水予報河川、水位周知河川）の外水氾濫	大雨浸水に関する情報「大雨危険度」※1 内水氾濫及び左記以外の河川の外水氾濫	土砂災害に関する情報「土砂災害危険度」	高潮に関する情報「高潮危険度」
発表単位		河川ごと	基本的に市町村ごと	基本的に市町村ごと	沿岸ごと又は市町村ごと※2
警戒レベル相当情報※4	5相当	レベル5 氾濫特別警報※3	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報※3
	4相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報
	3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報
	2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報

左記情報名称のポイントをシンプルに表現
→将来的に「警戒レベル」が社会に十分に浸透した際には、以下のようなシンプルな形の名称を検討することも一案。

		洪水危険度	大雨危険度	土砂危険度	高潮危険度
警戒レベル相当情報	5相当	洪水レベル5	大雨レベル5	土砂レベル5	高潮レベル5
	4相当	洪水レベル4	大雨レベル4	土砂レベル4	高潮レベル4
	3相当	洪水レベル3	大雨レベル3	土砂レベル3	高潮レベル3
	2	洪水レベル2	大雨レベル2	土砂レベル2	高潮レベル2

・ 情報名称の最終決定は、法制度や実際の情報の運用、伝え方なども踏まえ、気象庁・国土交通省が行う。
※1 警戒レベル相当情報への位置づけについては、関係機関で今後の課題として検討。
※2 発表単位をどうすべきかについては、情報利用者の視点も踏まえつつ、引き続き関係機関で検討。
※3 洪水予報河川または水位周知河川、高潮に関する情報の対象沿岸において氾濫の発生を確認した場合、その旨を氾濫特別警報または高潮特別警報の文章情報等に明記。
※4 警戒レベル相当情報とは、国・都道府県が発表する防災気象情報のうち、居住者等が自ら行動をとる際の判断に参考となる防災気象情報と５段階の警戒レベルとを関連付けるものである。警戒レベル相当情報が発表されたとしても必ずしも同時刻に同じレベルの避難情報が発令されるものでない。

■１）⑥防災情報の提供【災害時の情報】【熊本地方気象台】

防災気象情報の改善

気象情報（解説情報）の体系整理

◎ **情報の性質を把握できるよう分類して提供**

➢ これまでいくつかの種類の「気象情報」として伝えていた情報は、線状降水帯をはじめとした具体的な極端現象が発生または発生しつつある場合にその旨を伝える「極端な現象を速報的に伝える情報」と、現在及び今後の気象状況等を網羅的に伝える「網羅的に解説する情報」に分類して提供。

➢ それぞれの区別がつくよう統一的な情報名称とし、「線状降水帯」などのキーワードを付すことにより情報へのアクセスを改善。

極端な現象を速報的に伝える情報・・・**「気象防災速報」**

現在
- 顕著な大雨に関する気象情報
- 記録的短時間大雨情報
- 顕著な大雪に関する気象情報
- 竜巻注意情報

→ 整理後
- 気象防災速報（線状降水帯発生）
- 気象防災速報（記録的短時間大雨）
- 気象防災速報（短時間大雪）
- 気象防災速報（竜巻注意／竜巻目撃）

網羅的に解説する情報・・・**「気象解説情報」**

現在
- 全般/地方/府県気象情報
- 全般台風情報

→ 整理後
- 気象解説情報（※）
- 気象解説情報（台風第○号）

※何に着目した情報なのかがわかるよう、括弧内にキーワードを付す。

防災気象情報の最適な活用に向けて

- 防災気象情報の基盤となる**データの提供の更なる推進**と共に、コンピュータで容易に処理できるよう**機械可読性の改善**も進める必要。
- 「プッシュ型」の防災気象情報とあわせて、ホームページ等に掲載する**「プル型」のコンテンツの活用を推進**すると共に、当該**コンテンツの充実**を図ることが重要。
- 防災気象情報を受け取った者が自ら考え主体的に行動することができる社会の実現を目指し、以下を推進する必要。
  - ➢ 防災気象情報の特徴・特性に対する理解が社会において深まるよう、**平時から知見を積み上げられる環境の構築**（ホームページへの解説資料の掲載等）
  - ➢ 国による普及啓発活動に加え、**様々な関係主体（教育機関、専門家、報道機関等）による普及啓発活動の推進**

■１）⑥防災情報の提供【災害時の情報】【熊本地方気象台】

防災気象情報の改善

【土砂災害】

＜現状＞

土砂災害に関する情報			
発表主体		都道府県と気象台	気象台
発表単位		市町村ごと	市町村ごと
発表指標		60分雨量（解析・予測） 土壌雨量指数（解析・予測）	土壌雨量指数 （解析・予測）
情報名称	5相当		大雨特別警報（土砂災害）
	4相当	土砂災害警戒情報	
	3相当		大雨警報（土砂災害）
	2		大雨注意報

＜改善（イメージ）＞

土砂災害に関する情報		
発表主体		関係機関が協力して発表
発表単位		市町村ごと
発表指標		60分雨量（解析・予測） 土壌雨量指数（解析・予測）
情報名称	5相当	レベル５土砂災害特別警報
	4相当	レベル４土砂災害危険警報
	3相当	レベル3土砂災害警報
	2	レベル２土砂災害注意報

【高潮】

＜現状＞

高潮に関する情報			
発表主体		都道府県	気象台
発表単位		沿岸ごと	市町村ごと
発表指標		潮位（実況）	潮位（実況・予測）
情報名称	5相当	高潮氾濫発生情報	
	4相当		高潮特別警報 高潮警報
	3相当		警報に切り替える可能性が高い 高潮注意報
	2		高潮注意報

＜改善（イメージ）＞

高潮に関する情報		
発表主体		関係機関が協力して発表
発表単位		沿岸ごとまたは市町村ごと※
発表指標		波浪のうちあげ高（実況・予測） 潮位（実況・予測）
情報名称	5相当	レベル5高潮特別警報
	4相当	レベル４高潮危険警報
	3相当	レベル3高潮警報
	2	レベル2高潮注意報

※ 情報利用者の視点も踏まえつつ、引き続き関係機関で検討

■１）⑥防災情報の提供【災害時の情報】【熊本地方気象台】

防災気象情報の改善

新たな防災気象情報における主な変更点①

＜土砂災害・高潮・洪水に関する情報（共通）＞

- ５段階の警戒レベルにあわせて、情報体系（レベル５●●特別警報、レベル４●●危険警報、レベル３●●警報、レベル２●●注意報）・名称を整理。
- 警戒レベル４に相当する「レベル４●●危険警報」を新設。

＜土砂災害＞

- これまでの「土砂災害警戒情報」は、「レベル４土砂災害危険警報」という名称で気象台が単独発表することに変更。
- レベル３の情報は３～６時間先にレベル４基準に到達すると予想した場合に発表する運用に変更（レベル４に到達しないレベル３情報の発表を大幅に減らせる）。
- これまで土壌雨量指数の1要素だったレベル２とレベル５基準は、レベル４基準（CL）と同様に、土壌雨量指数と60分雨量の2要素に変更。

＜高潮＞

- 潮位予測だけでなく沿岸に打ち寄せる波（波のうちあげ高）を考慮した情報発表を新たに開始する（令和８年度は一部海岸、その後順次実施）。
- 高潮特別警報は発表基準を変更して警戒レベル５相当情報として運用（これまでの台風を要因とする高潮特別警報の運用はなくなり、レベル５相当の基準を新たに設定して運用）。

■１）⑥防災情報の提供【災害時の情報】【熊本地方気象台】

防災気象情報の改善

【洪水等】

現状

洪水に関する情報					大雨浸水に関する情報
分類	洪水予報河川	水位周知河川		洪水予報河川・水位周知河川以外の河川	
河川数	429河川	1,774河川		約20,000河川※1	－
発表主体	河川事務所または都道府県と気象台	河川事務所または都道府県	気象台	気象台	気象台
発表単位	河川ごと	河川ごと	市町村ごと	市町村ごと	市町村ごと
対象とする現象	外水氾濫	外水氾濫	外水氾濫 湛水型の内水氾濫	外水氾濫 湛水型の内水氾濫	内水氾濫による浸水 （外水氾濫による浸水※2）
発表指標	【２～４相当】 水位（実測・予測） 【5相当】 実現象（確認）	【２～４相当】 水位（実測のみ） 【5相当】 実現象（確認）	流域雨量指数 表面雨量指数 （解析・予測）	流域雨量指数 表面雨量指数 （解析・予測）	表面雨量指数 （流域雨量指数※2） （解析・予測）
情報名称 5相当	氾濫発生情報	氾濫発生情報			【5相当】大雨特別警報（浸水害）※2
情報名称 4相当	氾濫危険情報	氾濫危険情報			
情報名称 3相当	氾濫警戒情報	氾濫警戒情報	洪水警報	洪水警報	大雨警報（浸水害） 大雨注意報 警戒レベル相当情報としての位置づけなし
情報名称 2（相当）	氾濫注意情報	氾濫注意情報	洪水注意報	洪水注意報	

※１　洪水キキクルで対象としている河川数（準用河川や普通河川も含まれる）
※２　大雨特別警報(浸水害)のみ外水氾濫も対象とする

改善（イメージ）

洪水に関する情報			大雨浸水に関する情報 （洪水予報河川・水位周知河川以外（その他河川）の洪水に関する情報を含む）
分類	洪水予報河川	水位周知河川	
河川数	429河川	1,774河川	－
発表主体	河川事務所または都道府県と気象台	関係機関が協力して発表	気象台
発表単位	河川ごと	河川ごと	市町村ごと
対象とする現象	外水氾濫	外水氾濫	内水氾濫による浸水 （湛水型の内水氾濫も含む） その他河川の外水氾濫
発表指標	【２～４相当】 水位（実測・予測） 【5相当】 実現象（確認）	【２～４相当】 水位（実測のみ）（流域雨量指数※３（解析・予測）） 【5相当】 実現象（確認）	表面雨量指数 流域雨量指数 （解析・予測）
情報名称 5相当	レベル５氾濫特別警報	レベル5氾濫特別警報	レベル5大雨特別警報
情報名称 4相当	レベル４氾濫危険警報	レベル4氾濫危険警報	レベル4大雨危険警報
情報名称 3相当	レベル３氾濫警報	レベル3氾濫警報	レベル3大雨警報
情報名称 2（相当）	レベル２氾濫注意報	レベル2氾濫注意報	レベル2大雨注意報

※３　住民等に対し今後の水位の見込みを伝える際に活用

警戒レベル相当情報に位置付けること等について、今後の課題として事務局にて関係機関の協力も得て検討

情報名称の最終決定は、法制度や実際の情報の運用、伝え方なども踏まえ、気象庁・国土交通省が行う

■１）⑥防災情報の提供【災害時の情報】【熊本地方気象台】

防災気象情報の改善

新たな防災気象情報における主な変更点②

＜洪水等＞

- これまでの市町村毎の洪水警報・洪水注意報の発表は行わない。
- 指定河川洪水予報については、運用変更はないが、気象業務法上の一般向けの警報を兼ねることになる（今までは水防目的の情報という扱い）。
- 水位周知河川については、これまで河川事務所・都道府県から提供してきた水位情報に今後の見通しも付した上で、両者が協力して情報発表することとし、この情報は水防法上の水位情報と気象業務法上の一般向けの警報を組み合わせたものとなる（令和８年度以降、当面は国管理河川のみ、都道府県管理河川は令和10年度以降の運用を検討中）。
- 上記以外の河川（その他河川）の洪水災害の呼びかけは大雨浸水に関する情報の中で扱う（令和８年度以降当面は都道府県管理河川の洪水災害の呼びかけは大雨浸水に関する情報の中で扱う）。
- 浸水害を対象とした大雨特別警報・警報・注意報は、大雨浸水に関する情報として警戒レベル毎に整理し、警戒レベル相当情報として位置づける予定。

＜気象情報（解説情報）＞

- 極端な現象を速報的に伝える「気象防災速報」と気象状況を網羅的に伝える「気象解説情報」に分類して発表する。（令和８年度からすべて実施）

■１）⑥防災情報の提供【災害時の情報】【熊本地方気象台】

防災気象情報の改善

水位周知河川に関する情報の文案について

- 情報文は、水位の状況（国による水位到達情報）と今後の見通し（気象台による水位の見込み情報）で構成。
- 水位の見込み情報については、流域雨量指数の予測値の明瞭な上昇がある場合（流域雨量指数の３時間先までの予測値により判断）とそれ以外の場合で案文を作成

情報文のイメージ

レベル4　〇〇川　氾濫危険警報
〇〇年〇〇月〇〇日〇〇時〇〇分
□□河川事務所・△△地方気象台発表
（第〇〇号）

（見出し）
【警戒レベル4相当情報[洪水]】〇〇川では、氾濫危険水位に到達し、洪水の危険度は今後さらに上昇する見込み

（水位の状況）
【警戒レベル4相当情報[洪水]】〇〇川の〇〇水位観測所（〇〇市）では、〇〇日〇〇時〇〇分頃に氾濫危険水位（〇〇m）に到達しました。市町村からの避難情報を確認するとともに、各自安全確保を図るなど、適切な防災行動をとってください。

（今後の見通し）
〇〇川では、水位が氾濫危険水位に到達しています。**洪水の危険度が今後さらに上昇する見込み**ですので、厳重に警戒してください。

（参考資料）

観測所名	〇〇水位観測所　〇〇市
レベル4水位　氾濫危険水位※	〇〇m
レベル３水位　避難判断水位※	〇〇m
レベル２水位　氾濫注意水位	〇〇m
レベル１水位　水防団待機水位	〇〇m
	〇〇川
受け持ち区間	左岸　〇〇から〇〇 右岸　〇〇から〇〇
氾濫が発生した場合の浸水想定区域	〇〇県〇〇市 △△県△△町

（今後の見通し）の箇所：
「レベル４氾濫危険警報」（氾濫危険情報）の場合の例：

※流域雨量指数（以下「指数」）が上昇する場合
〇〇川では、水位が氾濫危険水位に到達しています。洪水の危険度が今後さらに上昇する見込みですので、厳重に警戒をしてください。

※指数が上昇しない場合
〇〇川では、水位が氾濫危険水位に到達しています。洪水の危険度が高い状態がしばらく続きますので、厳重に警戒をしてください。

（水位の状況）や（参考資料）の内容は水位到達情報から取得

注：情報名称は検討中のため、今後、変更の可能性がある

■１）⑥防災情報の提供【災害時の情報】(2)【熊本地方気象台】

線状降水帯に係る情報

■予防的避難など住民の自主避難につなげるため、熊本地方気象台からの情報提供の充実

半日前予測（明るいうちから早めの避難）
- 令和４年６月から、線状降水帯による大雨の可能性の半日程度前からの呼びかけ（広域を対象）を開始。
- 令和６年５月27日から、対象地域を府県単位に絞り込んだ呼びかけを開始。

顕著な大雨に関する気象情報（迫りくる危険から直ちに避難）
- 令和３年６月から、線状降水帯の発生をお知らせする情報を提供開始。
- 令和５年５月から、発表基準を踏襲しつつ、最大30分程度前倒しでの発表を開始。

※具体的な情報発信のあり方や避難計画等への活用方法について、情報の精度を踏まえつつ有識者等の意見を踏まえ検討

■１）⑥防災情報の提供【災害時の情報】【熊本地方気象台】

線状降水帯に係る情報

■予防的避難など住民の自主避難につなげるため、熊本地方気象台からの情報提供の充実

【線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ】

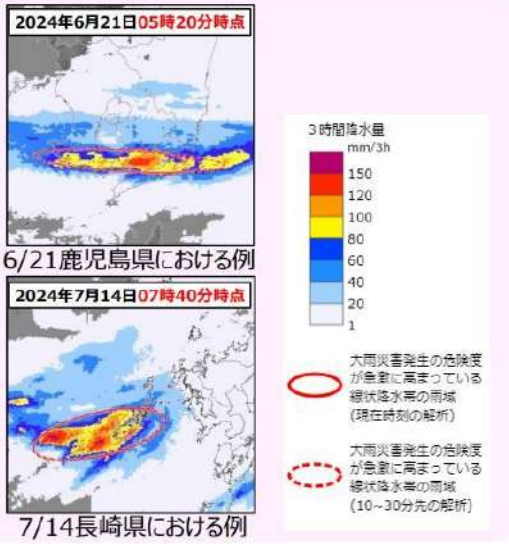
令和6年の半日前予測は、運用開始前の想定に比べて、適中率は15ポイント低く、捕捉率は12ポイント低かった＊。

＊線状降水帯の発生回数は年変動が大きいため、単年での評価は難しい。

令和6年の実績

府県単位でのとりまとめ結果	運用開始前の想定	令和６年
線状降水帯発生の呼びかけ「あり」 のうち 線状降水帯の発生「あり」※2	25%程度 （４回に１回程度）	適中率（高いほうが良い） 約10% (81回中８回)
線状降水帯の発生「あり」 のうち 線状降水帯発生の呼びかけ「あり」※2	50%程度 （２回に１回程度）	捕捉率（高いほうが良い） 約38% (21回中８回)

※1 線状降水帯の事例の数え方は、線状降水帯の雨域は複数の県にまたがる場合もあるため、令和５年度以前と同様に地方予報区（全国を11ブロックに分けた地域）単位としており、令和６年の事例数は１９事例（11月11日時点）だった。
※2 線状降水帯の事例数と、府県単位での線状降水帯の発生「あり」の数は異なる場合がある。



➢線状降水帯発生の呼びかけを行った81回中、線状降水帯の 発生「あり」は8回であるが、それ以外にも、３時間降水量が100mm以上となったのは27回あることから、**この呼びかけが行われたときには、大雨災害への 心構えを一段高めていただくことが重要**である。

■１）⑥防災情報の提供【災害時の情報】【熊本地方気象台】

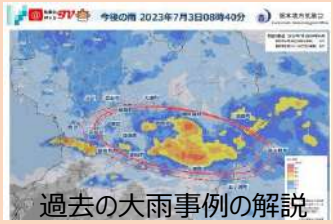
市町村における地域防災支援のための気象解説について、Web会議を活用した定期的な気象解説、および悪天時の常時接続等の実施により改善

- ➢ 県、市町村、報道機関等を対象として出水期（6月～10月）の毎週金曜日にWeb定時気象解説（1週間先までの見通し）及び気象解説資料の提供
- ➢ 大雨の**警報級の可能性が高まった場合**等は**WEB臨時気象解説を実施**、さらに複数市町村への**土砂災害警戒情報等の警戒レベル4相当**情報発表が想定される場合は、県及び市町村、河川事務所への**WEB解説を常時接続**にして、リアルタイムで**相互に情報交換ができる環境**を整えている。

定期的なWeb気象解説
毎週金曜11:30～

当日スケジュール
～10時開催案内(解説内容・URL)
～11時半 資料送付
11時30分～定時気象解説

解説内容
・季節に応じた天気の見通し
・要望に応じた気象知識
・地震火山に関する知識


過去の大雨事例の解説

臨時のWeb気象解説
（悪天時常時接続）

解説内容
・天気の見通し(現象のピークなど)
・警報等発表の見通し
・警報等解除の見通し

解説資料の提供

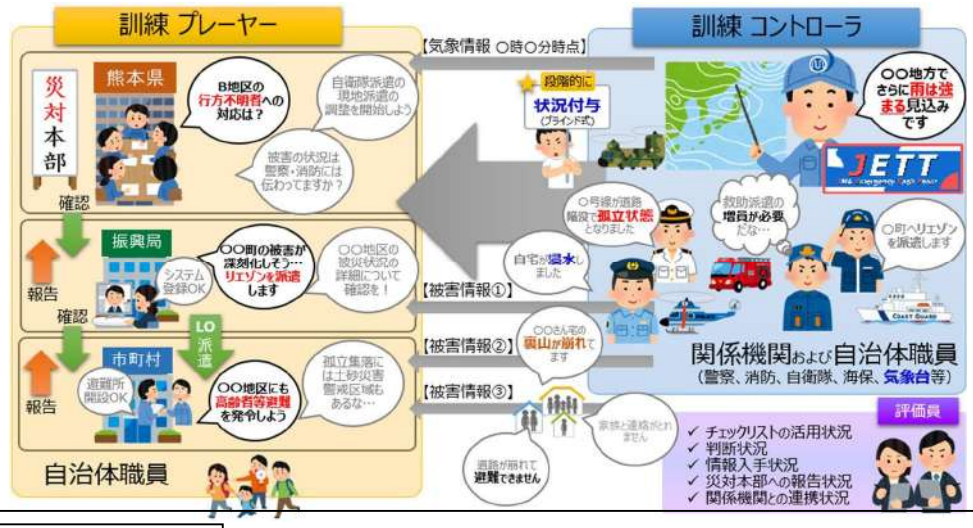
悪天時の常時接続の様子

■１）③災害発生を想定した事前準備【共助】【熊本地方気象台】

水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施

- 熊本県が行う令和2年7月豪雨を教訓に防災担当職員の対応能力向上および関係機関との連携強化を図る豪雨対応訓練への参加協力
- 令和6年は東京大学先端科学技術研究センターClimCORE（クライムコア）と連携し、再解析（平成29年7月九州北部豪雨）データを利用した訓練を玉名市、菊池市、阿蘇市で実施

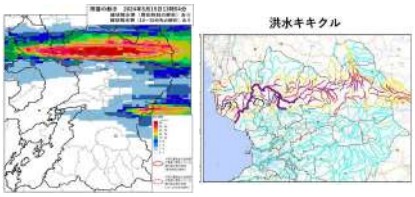
訓練当日全体のイメージ



令和6年度訓練の様子

気象台の役割

- **気象情報に関連するシナリオ作成**
- **市町村に特化した付与資料（防災情報等）の作成**
- コントローラ役としての訓練参加、**JETT派遣を想定した災害警戒本部運営訓練等での気象解説**（令和6年は県に７回と８市町村に派遣）



※再解析データによる解析雨量、キキクル

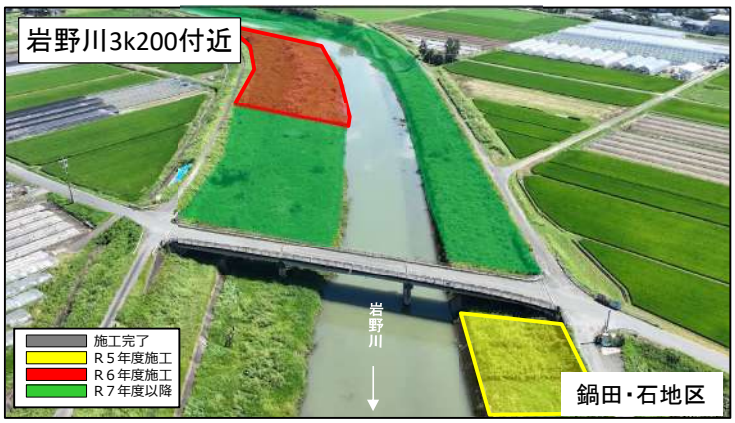
【菊池川河川事務所】

更新 菊池川水系流域治水プロジェクト 【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道掘削、堤防整備（山鹿市）	菊池川河川事務所

○河道の流下能力向上のため、菊池川（小原地区）の河道掘削を行うとともに岩野川（鍋田・石地区）の河道掘削、堤防整備を行う。

■取組内容の説明



■令和6年度時点の取組進捗状況

菊池川（小原地区）の河道掘削、 岩野川（鍋田地区）の河道掘削、堤防整備を実施している。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
河道掘削、堤防整備	河道掘削、堤防整備	R6時点		目標

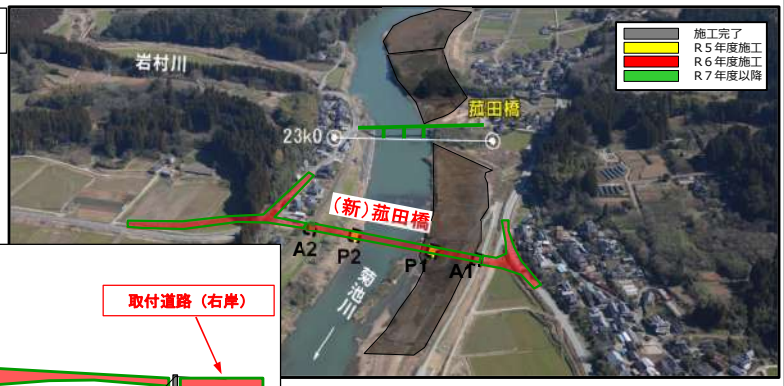
更新 菊池川水系流域治水プロジェクト 【流域治水対策内容のフォローアップ】

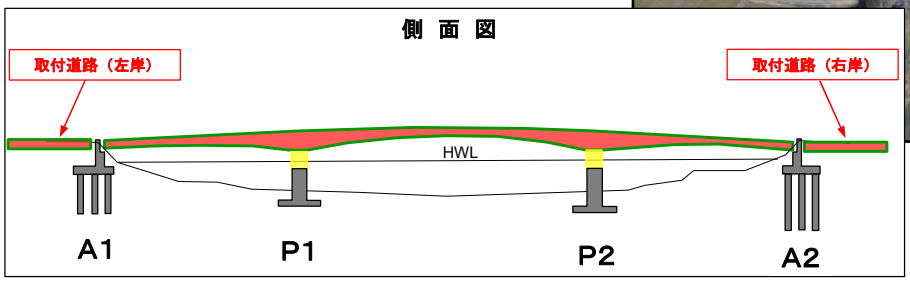
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道掘削、堤防整備、橋梁架替（和水町）	菊池川河川事務所

○河道の流下能力向上のため、菊池川（菰田地区）の河道掘削、堤防整備、菰田橋の架替を行う。

■取組内容の説明

菊池川23k000付近





■令和6年度時点の取組進捗状況

・令和5年度までに菰田橋の架替A1,P1,A2,P2を完了し、上部工及び取付道路を施工中。
・旧橋撤去後に河道掘削を実施予定。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
河道掘削、堤防整備、橋梁架替	河道掘削、堤防整備、橋梁架替	R6時点		目標

更新 菊池川水系流域治水プロジェクト 【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道掘削、樹木伐採（和水町）	菊池川河川事務所

○河道の流下能力向上のため、菊池川の河道掘削、樹木伐採を行う。

■取組内容の説明

■令和6年度時点の取組進捗状況

樹木伐採を実施中。

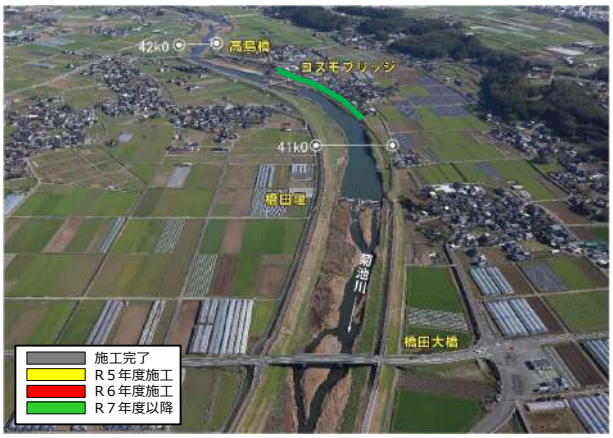
対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
河道掘削、樹木伐採	河道掘削、樹木伐採	R6時点		目標

更新 菊池川水系流域治水プロジェクト 【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	堤防整備（菊池市）	菊池川河川事務所

○洪水を安全に流下させるため、菊池川（亀尾地区）の堤防整備を行う。

■取組内容の説明



■令和6年度時点の取組進捗状況

堤防整備を実施している。

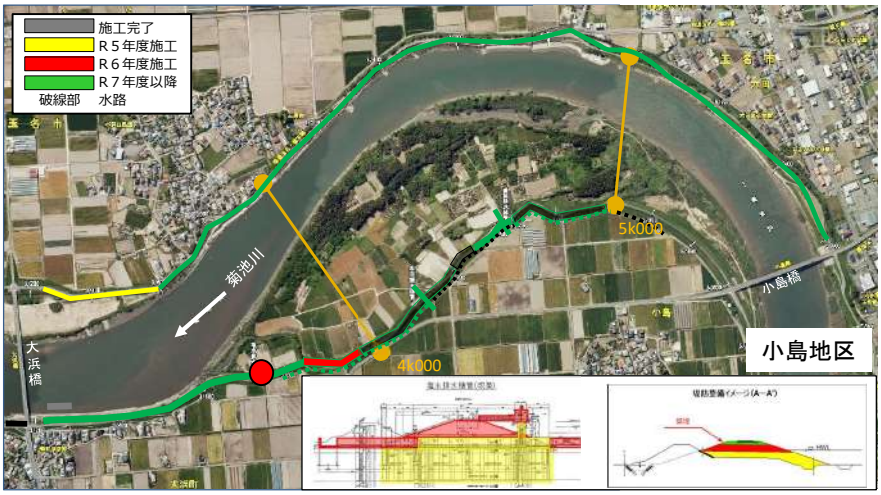
対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
堤防整備	堤防整備	R6時点		目標

更新 菊池川水系流域治水プロジェクト 【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	堤防整備（玉名市）	菊池川河川事務所

○洪水を安全に流下させるため、菊池川（小浜地区、小島地区）の堤防整備を行う。

■取組内容の説明



■令和6年度時点の取組進捗状況

堤防整備及び樋管改築を実施している。

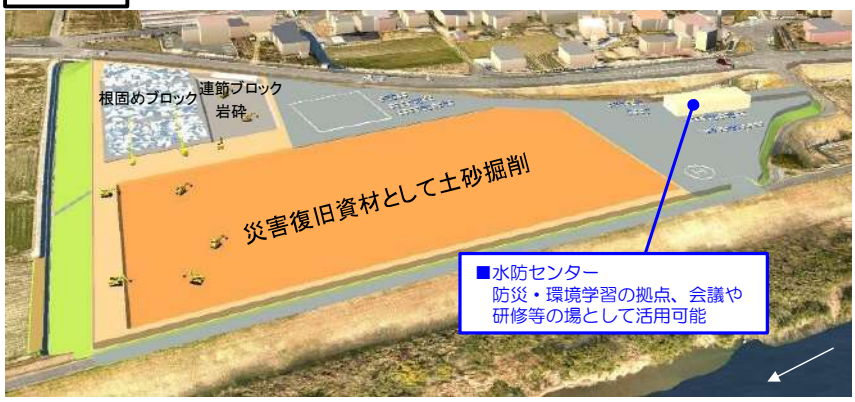
対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
堤防整備	堤防整備	R6時点		目標

更新 菊池川水系流域治水プロジェクト 【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害対象を減少させるための対策	防災拠点整備（玉名市）	菊池川河川事務所 玉名市

○洪水時の水防活動や緊急復旧活動を行う拠点となる「河川防災ステーション」の整備を行う。

■取組内容の説明



■令和5年度時点の取組進捗状況

令和4年3月25日に「元玉名地区河川防災ステーション」整備計画が登録された。
令和4年度から測量設計・用地調査を実施している。
令和6年度から盛土工事に着手。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
防災拠点整備	河川防災ステーション	R6時点		目標

継続 菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水害リスクマップ作成・公表	菊池川河川事務所

○流域治水の取組を推進するため、水害リスクマップを作成し公表する。

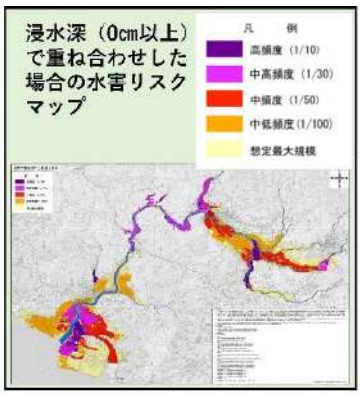
■取組内容の説明

・流域治水の取組を推進するために、「土地利用や住まい方の工夫の検討」及び「水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討」などに活用する。

多段階の浸水想定図

想定最大規模に加え、高頻度から中頻度で発生する降雨規模毎（1/10、1/30、1/50、1/100）に表示した浸水想定図。

水害リスクマップ



多段階の浸水想定図を用いて、浸水範囲を浸水深毎（0cm以上、0.5m以上（床上浸水）、3.0m以上（1階居室浸水））に重ね合て表示した図。

■令和6年度時点の取組進捗状況

令和4年4月28日に多段階の浸水想定図及び水害リスクマップを作成し、公表した。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
水害リスクマップ作成・公表	水害リスクマップ作成・公表	R6時点		目標

多段階浸水想定図・水害リスクマップの概要

○土地利用や住まい方の工夫の検討及び水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討など、流域治水の取組を推進することを目的として作成。

●「多段階浸水想定図」：確率規模ごとに浸水範囲や浸水深を表示した図

●「水害リスクマップ」：確率規模ごとに浸水範囲を重ね合わせ、浸水頻度の関係を表示した図

○さらに、それぞれ現況河道だけでなく、当面の整備を反映した短期河道における図も作成。

○菊池川水系　多段階浸水想定図・水害リスクマップの作成ケース

発生頻度　高 → 低

河道条件	浸水深	1/10 規模	1/30 規模	1/50 規模	1/100 規模	想定最大規模
現況河道（R2年度末）	全範囲	○	○	○	○	○ ※1
	50cm以上	○	○	○	○	○ ※1
	3.0m以上	○	○	○	○	○ ※1
短期河道（R7年度末）※2	全範囲	○	○	○	○	○ ※1
	50cm以上	○	○	○	○	○ ※1
	3.0m以上	○	○	○	○	○ ※1

→ 多段階浸水想定図
確率規模ごと、整備段階ごとに浸水深を表示した図
（現況河道版・短期河道版）

浸水範囲を重ね合わせ → 水害リスクマップ（現況河道版）

浸水範囲を重ね合わせ → 水害リスクマップ（短期河道版）

※１：想定最大規模の浸水範囲は、水防法に基づき平成２８年５月に指定・公表したものを表示しております。

※２：短期河道の河道条件については、今後の事業進捗の状況により、変更となる場合があります。

継続 菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	流域治水に関する情報を発信	熊本河川国道・八代河川国道・菊池川河川事務所 熊本県

○熊本県内の住民に対して、流域治水に関する情報を発信する。

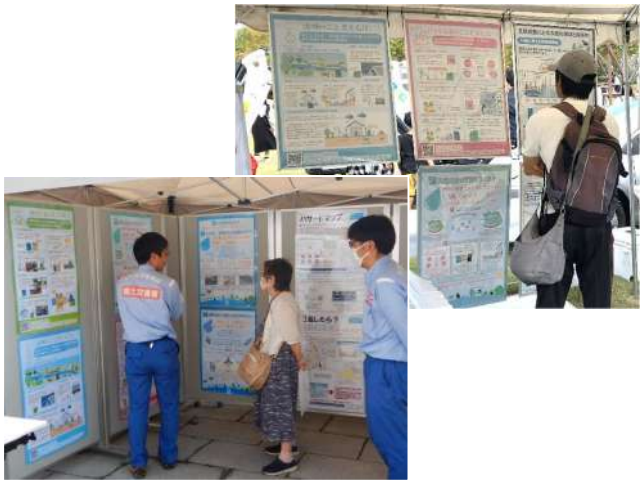
■取組内容の説明

【くまもと流域治水プロジェクト】

・流域治水とは？
・流域治水は誰のためにやるのか
・流域治水は何をするのか
・自分や家族のことを守ること
・流域のことを考えること
・地域で協力すること

パンフレット

ポスター


イベント展示による流域治水の啓発活動

■令和6年度時点の取組進捗状況

熊本県内の河川事務所と熊本県で、くまもと流域治水プロジェクト推進連絡会を設置。
連絡会にて、流域治水の取り組み内容を紹介するパンフレット、ポスターを作成し、イベント展示等での啓発活動を行った。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
流域治水PR	流域治水を情報発信	R6時点		目標

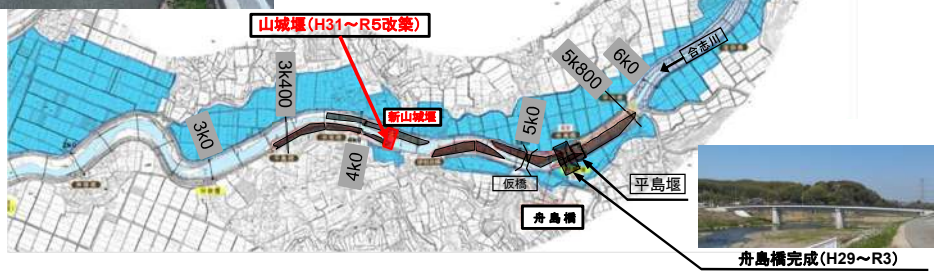
完了 菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道掘削、築堤、橋梁架替、堰改築（熊本市）	菊池川河川事務所

○河道の流下能力向上のため、合志川の河道掘削、築堤、山城堰の改築、舟島橋の架替を行う。

■取組内容の説明

合志川（植木温泉街）の浸水状況
（合志川4.2k） H24.7.12



舟島橋完成（H29～R3）

■令和5年度時点の取組進捗状況

・令和3年度に舟島橋架替完了。
・令和5年度に河道掘削、山城堰の改築が完了。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
河道掘削、築堤、堰改築、橋梁架替	河道掘削、築堤、堰改築、橋梁架替	完了		目標

■１）①水防学習・教育の推進　【菊池川河川事務所】

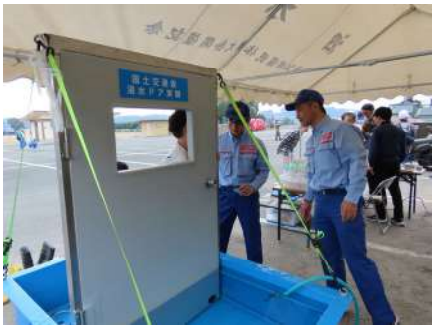
■防災に関する継続性のあるイベント等の企画、実施

○各自治体の防災イベントへの参加や、地域住民等を対象とした、防災講習や体験型防災講座を実施した。

令和６年６月　防災フェア
（主催：熊本市植木町田底校区）

令和６年９月　あらお防災フェスタ
（主催：荒尾市）

令和６年１０月　防災フェア
（主催：長洲町）



令和６年１１月　菊池市総合防災訓練
（主催：菊池市）

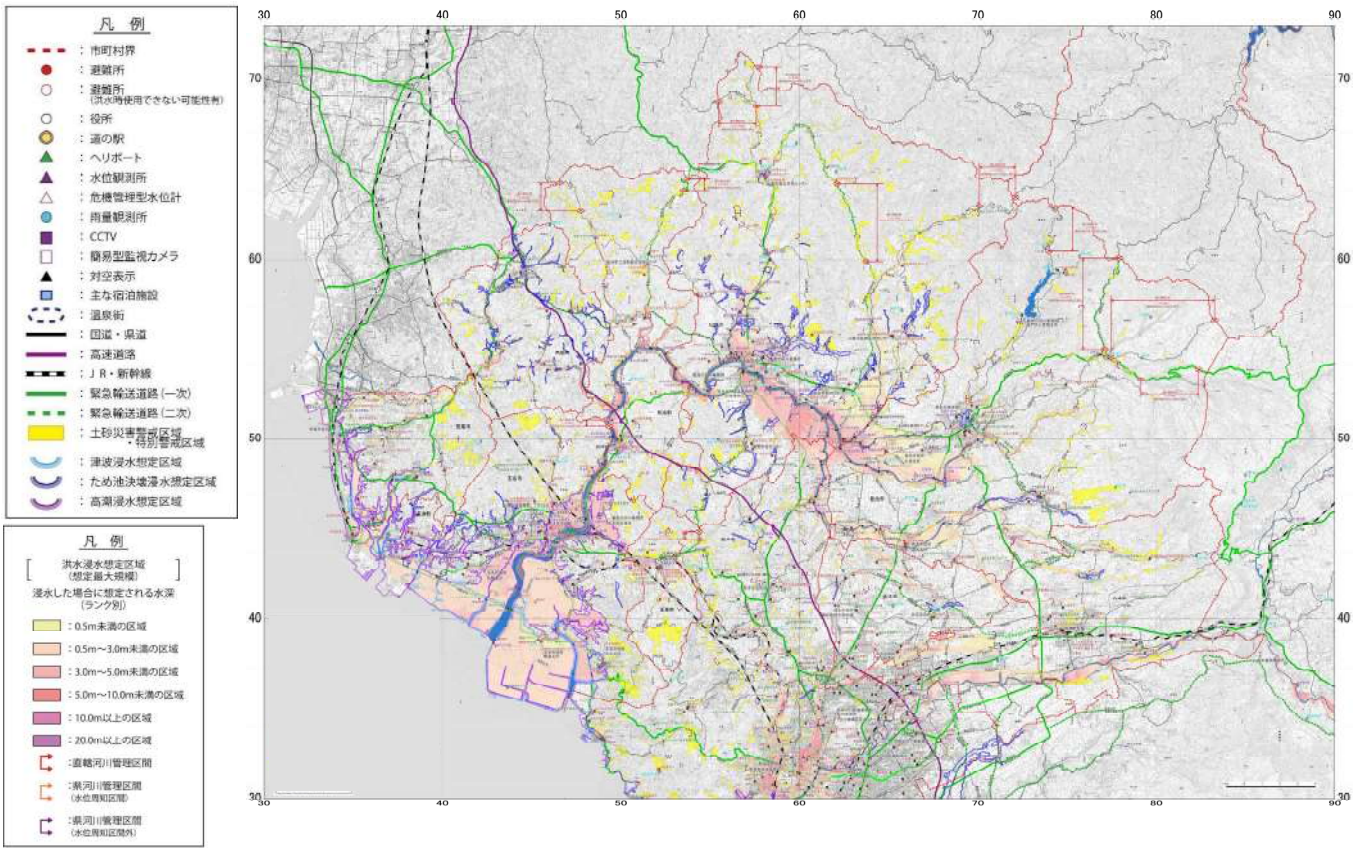
令和６年１１月　北区こどもまつり
（主催：北区こどもまつり実行委員会）

令和７年１月　山鹿市防災のつどい
（主催：山鹿市社会福祉協議会）

■1）⑤各自治体が広域的に連携できるための仕組みづくり【避難計画】（1、2）【全関係機関】

■熊本県北地域全体の自然災害による被災履歴等災害情報を表示した広域ハザードマップの検討、作成

○ため池ハザードマップ、避難所の情報を更新するなど、広域ハザードマップの更新を行った。



■1）⑦水害時の適切な避難行動(1)　【菊池川河川、熊本県、玉名市、山鹿市】

■ 地区の住民が主体となったマイハザードマップの作成・支援及び避難訓練の検討、実施

○令和6年６月９日に、山鹿市宗方地区で、令和6年11月17日に、玉名市松木地区で防災まち歩き地域ワーキングを実施した。
○指定避難所までのルートを、市・県・国の職員が一緒に、危険な箇所や気づきについて対話しながら歩き、防災のポイントについて一緒に考えた。

山鹿市宗方地区の様子

玉名市松木地区の様子

■3）①防災情報提供を支援するハード整備【菊池川河川事務所、玉名市】

■浸水被害を最小限に抑えるため、迅速な水防活動及び緊急復旧活動を行う拠点となる河川防災拠点等の検討、整備

○洪水時の水防活動や緊急復旧活動を行う拠点となる「河川防災ステーション」の整備を玉名市と連携し進めている。令和６年度から造成工事を着手。

位置図

施設配置平面図（案）

整備イメージ

※今後、詳細な設計等を実施により、実施内容を変更する場合があります。

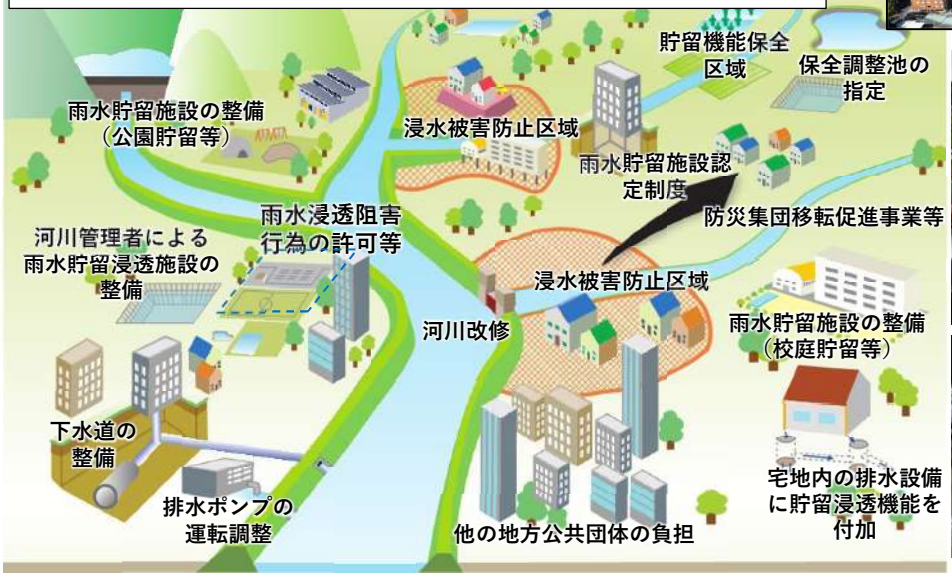
■流域治水の取り組み【菊池川河川事務所、熊本県、玉名市】

■繁根木川 特定都市河川指定の検討

○繁根木川では、下流部において市街地が密接しており、河道拡幅等の河川整備によるリスク軽減が困難な状況等から、特定都市河川指定に向けた検討を進めている。
○流域治水の推進、特定都市河川指定の検討のため、関係者（熊本県・玉名市 関係部署）と流域の課題やその対策等に関する意見交換会を実施している。

●特定都市河川の指定によってできるようになること

① 流域開発による雨水流出量を今以上に増やさない
② 雨水の貯留・浸透対策の進捗により、雨水の流出量を減らす
③ 貯留機能があるエリアを今後も保全する
④ 浸水エリアに土地利用規制を適用するなど、危険なエリアには住ませない・安全な場所に移転する等の対策を講じる



繁根木川下流部沿川の市街地密接状況

意見交換会実施状況

合同現地調査・意見交換会実施状況（R6.6.6：第1回）

意見交換会実施状況（R6.8.7：第2回、R6.10.1：第3回）